USA's primary source for projector lamps
myprojectorlamps

プロジェクター所有者の取扱説明書

BenQ

PB8253

このプロジェクターの交換用ランプが必要ですか？

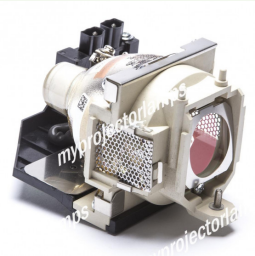
www.mplamps.co.jp

メーカーオリジナル取扱説明書。MyProjectorLamps.comの厚意として、修正せずに提供しています。
すべての商標は、それぞれの所有者の所有物です。

mplamps.co.jp
プロジェクターランプ業界最大級のオンラインショップ

プロジェクターランプの交換時ですか？

お使いのBenQ PB8253の交換用ランプは、現在入手可能です。



BenQ PB8253プロジェクターランプ

部品番号：5J.J2G01.001 / 6E.J2G01.001
モジュール付きのオリジナルランプ（取付準備完了）
180日間保証

21,953円から

コードをスキャンするかアクセスする

www.mplamps.co.jp/projector-lamps/Benq/PB8253.html

表示価格は、このページが作成された時の価格です。現在の価格はサイトをご確認ください。

BenQ

PB8253/PB8263 デジタル プロジェクタ
インストレーションシリーズ
取扱説明書

Welcome

著作権

Copyright 2006 by BenQ Corporation. All rights reserved. 本書のいかなる部分も、BenQ Corporation の事前の書面による同意なく、電子的、機械的、磁気的、光学的、化学的、手動その他の手段を問わず、複製、転載、改変、検索システムへの保存、他言語またはコンピュータ言語への翻訳を行うことはできません。

免責

BenQ Corporation は、明示的または暗示的を問わず、本書の内容に関して、特に保証、商業的可能性、特定目的への適合性に関しては、いかなる表明または保証もいたしません。また、BenQ Corporation は、お客様に改訂または修正の通知を行う義務を負うことなく、本書を改訂したり、本書の内容を随時修正する権利を有します。

* DLP、Digital Micromirror Device、および DMD は、Texas Instruments の商標です。その他の商標については、それぞれの企業または組織が著作権を保有しています。

目次

安全にお使いいただくために 5

はじめに 9
- プロジェクタの特長 9
- パッケージ内容 10
- プロジェクタ外観ビュー 11
- 制御装置および機能 13

設置 18
- 場所の選択 18
- プロジェクタを天井に取り付けるための安全のための注意 19
- スクリーンサイズの調整 20

接続 23
- コンピュータまたはモニタの接続 23
- ビデオ機器との接続 26

操作 31
- 起動 31
- 入力信号の切り替え 32
- 投写イメージの調整 32
- 縦横比の選択 34
- 画像の最適化 35
- 高地での操作 38
- プロジェクタのメニューディスプレイのカスタマイズ 38
- 画像を隠す 39
- リモートからのページ操作 39
- 画像の静止 39
- レーザーポインタの使い方 39
- PIP (Picture In Picture) の操作 40
- プロジェクタの終了 41
- OSD (On-Screen Display) メニューの操作 42

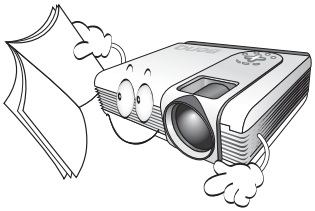
メンテナンス.....49
プロジェクタのお手入れ.....49
ランプについて.....52
温度情報.....54
インジケータ.....55
トラブルシューティング.....57
仕様.....59
プロジェクタの仕様.....59
外形寸法.....60
タイミングチャート.....60
保証.....62
限定保証.....62
法規.....63
FCC 規則.....63
EEC 規則.....63
MIC 規則.....63
WEEE 指令.....63

1 安全にお使いいただくために

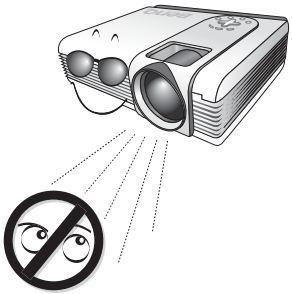
お使いの BenQ プロジェクタは、情報テクノロジ機器の最新の安全規格に適合するように設計され、テストされています。ただし、本装置を安全にご使用いただくために、このガイドおよび装置のマークに記載されている指示に従ってください。

安全にお使いいただくために

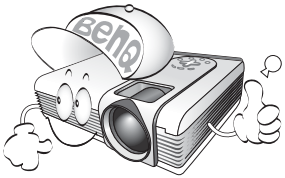
1. プロジェクタを操作する前に、このユーザーガイドをお読みください。またいつでも参照できるように、手の届く場所に保管しておいてください。



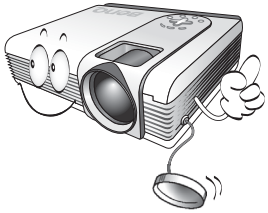
2. 動作中は、プロジェクタのレンズを覗き込まないでください。光線が強力なので、視力障害を引き起こす恐れがあります。



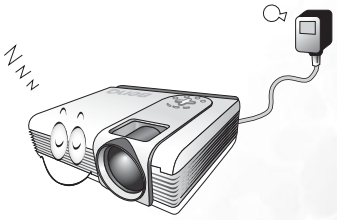
3. 点検修理については、認定技術者にお問い合わせください。



4. プロジェクタのランプをオンにするときは、必ずレンズシャッターを開くか、レンズキャップを取り外してください。



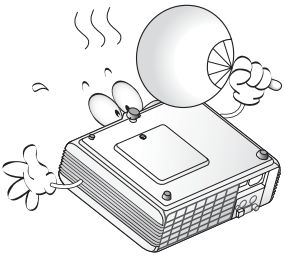
5. 国によっては、電源電圧が一定していない場合もあります。プロジェクタは、電源が AC100 ～ 240V の電圧範囲のときに安全に作動するように設計されていますが、停電や±10V のサージが発生すると故障する可能性があります。電源の電圧が変動したり、電源供給が中断したりする地域では、電源安定器、サージプロテクタ、または無停電電源装置（UPS）にプロジェクタを接続することをお薦めします。



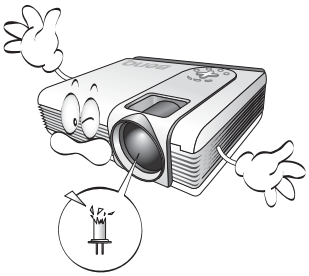
6. プロジェクタが作動しているときに投写レンズを物体で塞ぐと、それが過熱して変形したり、火災の原因となったりします。一時的にランプをオフにするには、プロジェクタかリモコンの **BLANK（ブランク）**ボタンを押してください。

安全上のご注意 (続き)

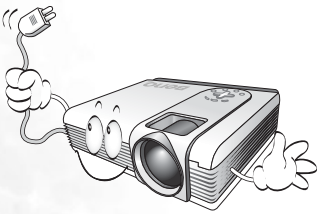
7. ランプは、動作中に非常に高温になります。ランプ部を取り外して交換する場合は、プロジェクタの電源を切ってから 45 分間ほど放置して、プロジェクタを常温に戻してください。



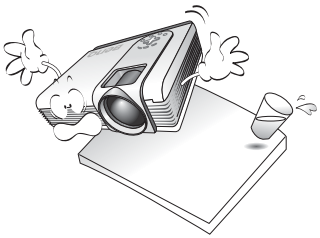
8. ランプは定格寿命より長く使用しないでください。ごくまれですが、定格寿命より長く使用すると、ランプが破裂することがあります。



9. ランプ部や電子部品の交換は、必ずプロジェクタの電源プラグを抜いてから行ってください。



10. 本製品は安定した場所に設置してください。本製品が落下して、重大な損傷を受ける恐れがあります。

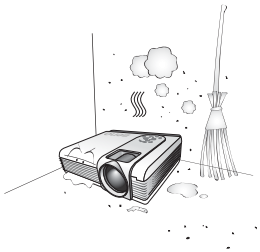


11. 本装置のキャビネットは開けないでください。内部には危険な電圧が流れており、触れると死に至る場合もあります。ユーザーが補修できるパーツは専用の取り外し可能なカバーが付いているランプだけです。
いかなる状況においても、これ以外のカバーをご自身で取り外そうとしないでください。補修については、指定された専門の技術者にお尋ねください。

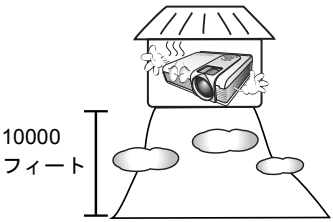


安全上のご注意（続き）

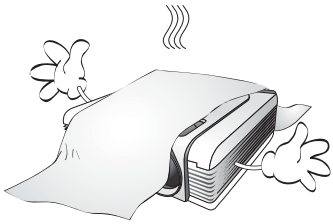
12. 次の場所に装置を置かないでください。
    - 通気が不十分な場所または密閉されている場所。壁との間隔を 50cm 以上空けて、プロジェクタの周辺の風通しをよくしてください。
    - 窓を締め切った車内など、非常に高温になる場所。
    - 非常に湿度が高い場所、ほこりの多い場所、タバコの煙にさらされる場所。このような場所に置くと、光学部品が汚れ、プロジェクタの寿命が短くなり、画像が暗くなります。



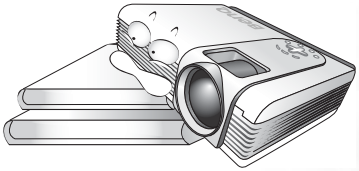
    - 火災報知器に近い場所。
    - 周辺温度が 40ºC/104ºF を超える場所。
    - 高度が 10000 フィートを超える場所。



13. 通気孔をふさがないでください。
    - 本製品をブランケットなどの寝具類、または他の柔らかい物の上に置かないでください。
    - 本製品の上に布などをかぶせないでください。
    - プロジェクタの近くに可燃物を置かないでください。

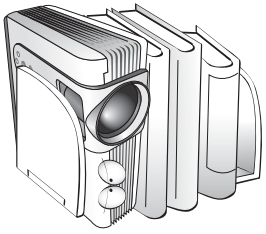


    通気孔がふさがれると、プロジェクタの内部が過熱し、火災が発生することがあります。
14. 使用時は必ず装置を水平な平面上に置いてください。
    - 左右の傾きが 10°、または前後の傾きが 15°を超える状態で使用しないでください。完全に水平になっていない状態でプロジェクタを使用すると、ランプが故障したり損傷することがあります。

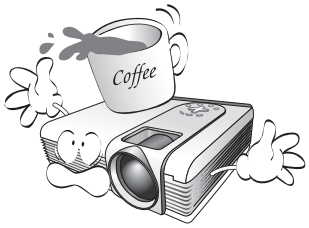


安全上のご注意（続き）

15. 装置を縦向きにしないでください。縦向きにすると、プロジェクタが倒れ、けがをしたり損傷する恐れがあります。



16. 装置の上に乗ったり、物を置かないでください。装置が物理的に損傷するだけでなく、事故やけがの原因になります。

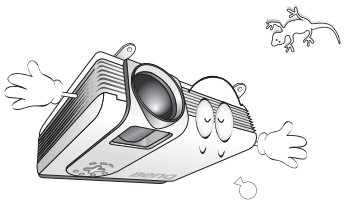


17. プロジェクタの上または近くに液体を置かないでください。プロジェクタ内部に液体がこぼれると故障の原因になります。プロジェクタを濡らした場合は、電源コンセントからプロジェクタを外し、BenQ にご連絡の上プロジェクタの点検をご依頼ください。



18. 本製品を天井に取り付けて、イメージを反転投写することができます。

⚠ **天井に取り付ける場合は、BenQ の天井取り付けキットを使用し、しっかりと固定してください。**



19. プロジェクタが稼動しているときには、通気孔から熱風と臭気を感じる場合があります。これは正常な状態であり、製品の欠陥によるものではありません。

2 はじめに

プロジェクタの特長

このプロジェクタは高性能な光学エンジン投写技術とユーザーフレンドリーな設計を統合しており、高い信頼性と使いやすさを実現しています。

プロジェクタには次のような特長があります。

- 高品質の手動ズームレンズ
- フル機能リモコン
- 最善の画質で表示するワンキー自動調整機能
- イメージの歪みを補正するデジタルキーストーン補正機能
- データ / ビデオ表示を調整可能なカラーバランスコントロール
- 超高輝度投写ランプ
- 1670 万色の表示能力
- 言語を選択できるオンスクリーン (OSD) メニュー
- 8 種類のアプリケーションモード
- 消費電力を節約する標準 / 省電力モードの切り替えが可能
- ステレオオーディオを実現するスピーカー内蔵
- コンポーネント HDTV との互換性（YPbPr）
- PC 入力端末 x 2 個 (RGB 信号入力ソケットと共有 DVI-A コネクタ) および PC 出力端末 x 2 個
- 取り替え可能なダストフィルタ

☞ • **投写イメージの明るさは、周辺光の状態および選択した入力ソースのコントラスト / 輝度設定によって変わります。また投写距離の影響を直接受けます。**

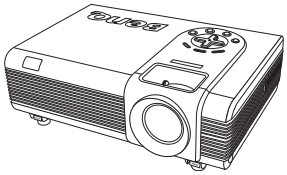
• **ランプの明度は時間の経過に伴い暗くなります。また明度はランプ製造元の仕様によって異なります。これは異常ではなく、正常で予期される変化です。**

パッケージ内容

プロジェクタには、PC とビデオ装置への接続に必要なケーブルが同梱されています。丁寧に開梱し、次に示すものがすべて揃っていることを確認してください。不足しているものがある場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

標準アクセサリ

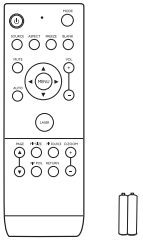
同梱のアクセサリ類は日本仕様のものであり、本書の図とは異なる場合があります。



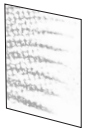
プロジェクタ



携帯用ソフト ケース



リモコン（電池付き）



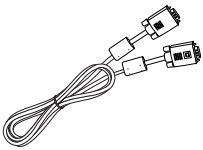
ユーザーズ ガイド



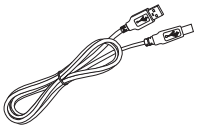
クイックスタートガイド



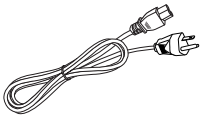
ユーザーズガイド CD



VGA ケーブル



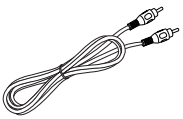
USB ケーブル



電源コード



PC オーディオケーブル



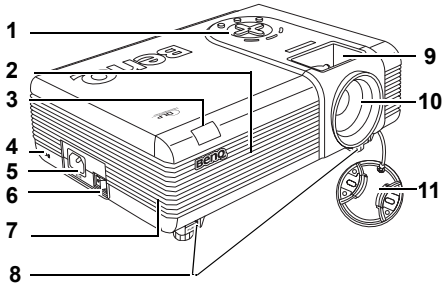
ビデオ ケーブル

別売りアクセサリ

1. 天井取り付けキット
2. スペアランプキット
3. Presentation Plus
4. ダストフィルタ キット

プロジェクタ外観ビュー

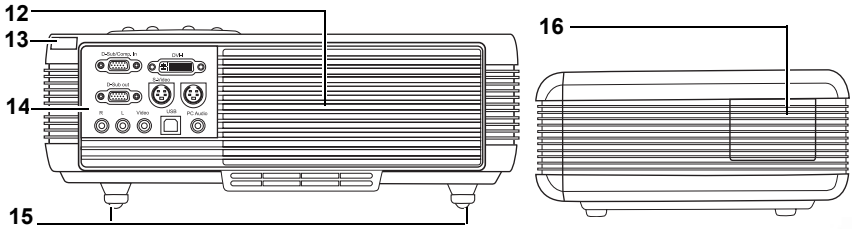
前面 / 上面



1. 外部コントロールパネル
   詳細は、13 ページの " プロジェクタ " を参照してください。
2. 通気（冷空取り込み）
3. 前面赤外線リモートセンサ
4. 盗難防止用ケンジントンロック スロット
5. AC 電源コード差し込み口
6. メインの電源スイッチ
7. フロントフィルタ グリル
8. クイックリリースボタン
9. ピント リングおよびズーム リング
10. 投写レンズ
11. レンズキャップ

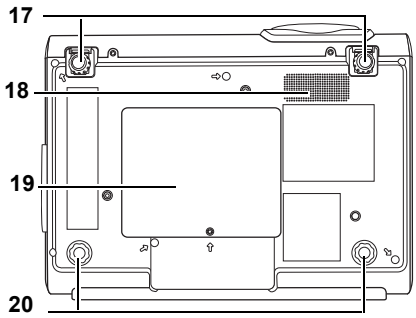
裏面 / 側面

各種機器への接続については、23 ページの " 接続 " を参照してください。



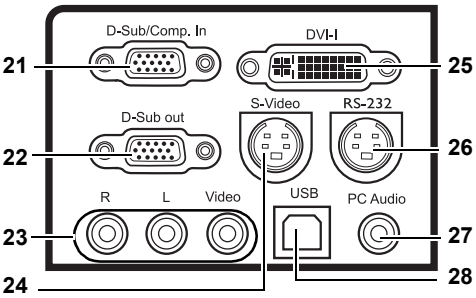
12. 通気（熱気排出）
13. 背面赤外線リモートセンサ
14. コネクタ パネル
    詳細は、12 ページの " コネクタ パネル " を参照してください。
15. 背面アジャスタ フット
16. サイドフィルタカバー

底面



17. 前面アジャスタ フット
18. スピーカーグリル
19. ランプカバー
20. 背面アジャスタ フット

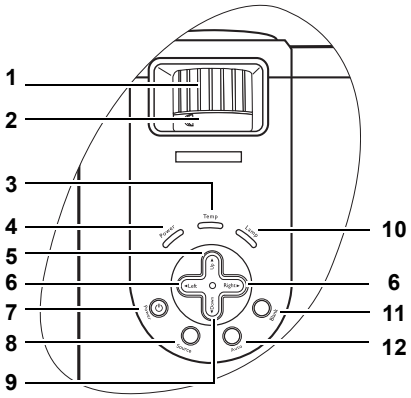
コネクタ パネル



21. RGB（PC）/ コンポーネントビデオ（YPbPr/YCbCr）信号入力ソケット
22. RGB 信号出力ソケット
23. オーディオ (左 / 右)/ ビデオ入力ソケット
24. S ビデオ入力ソケット
25. DVI-I 信号入力ソケット
    DVI-D ビデオ信号と DVI-A PC 信号に対応
26. RS 232 コントロールポート
    外部コントロールシステム用で、補修技術者が使用します。
27. PC オーディオ入力ソケット
28. USB ソケット

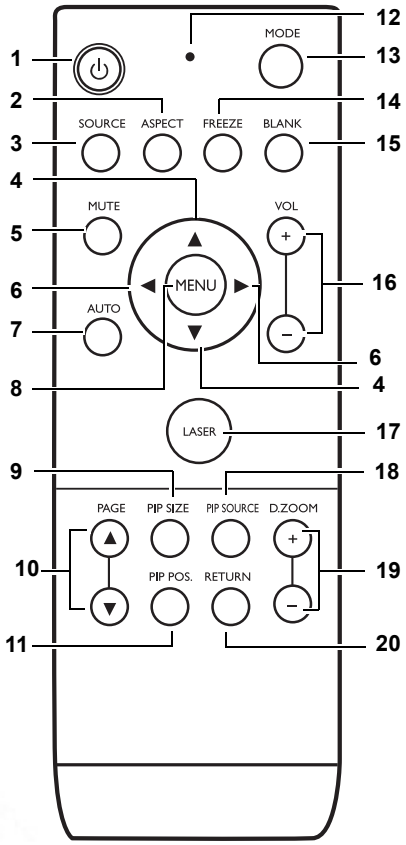
制御装置および機能

プロジェクタ



1. **ピント リング**
   投写イメージの焦点を調整します。33 ページの " 画像サイズと明瞭さの微調整 " を参照してください。
2. **ズームリング**
   画像のサイズを調整します。33 ページの " 画像サイズと明瞭さの微調整 " を参照してください。
3. **Temp 温度警告ライト**
   プロジェクタの温度が異常に高くなると点灯または点滅します。55 ページの " インジケータ " を参照してください。
4. **電源インジケータ ライト**
   プロジェクタがスタンバイモードのとき、または使用中に点灯します。55 ページの " インジケータ " を参照してください。
5. **▲ Exit (終了)**
   終了し、メニューの設定を保存します。
6. **◀ 左 / ▶ 右**
   投写画像の上下のキーストーンを補正します。
   オンスクリーンメニューが有効になっているときに、選択肢を左右に移動したり、調整を行ったりします。
   詳細は、35 ページの " キーストーンの補正 " と 43 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。
7. **電源**
   プロジェクタのオン / オフを切り替えます。詳細は 31 ページの " 起動 " と 41 ページの " プロジェクタの終了 " を参照してください。
8. **ソース**
   入力信号をアナログ RGB、DVI-A、DVI-D、アナログ YpbPr、S ビデオ、コンポジットビデオの順番で切り替えます。32 ページの " 入力信号の切り替え " を参照してください。
9. **▼ Menu (メニュー)**
   オン スクリーン ディスプレイのコントロール メニューをオンにします。
   オンスクリーンメニューが有効になっているときに、選択肢を左右に移動します。
   43 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。
10. **Lamp インジケータ ライト**
    ランプの状態を表示します。ランプに問題が発生した場合に点灯または点滅します。55 ページの " インジケータ " を参照してください。
11. **Blank (ブランク)**
    スクリーンのイメージを消すために使用します。プロジェクタかリモコンの Blank（ブランク）を押すと、画像が再び表示されます。39 ページの " 画像を隠す " を参照してください。
12. **Auto (自動)**
    表示画像に最適なピクチャタイミングを自動的に決定します。33 ページの " イメージの自動調整 " を参照してください。

リモートコントロール



1. **電源**
   スタンバイモードと電源オンの状態を切り替えます。
   プロジェクタがスタンバイモードになっているときに、このボタンを 1 回押すとプロジェクタがオンになります。プロジェクタがオンになっているときには、このボタンを 1 回押すとスタンバイモードになります。
   詳細は、31 ページの " 起動 " と 41 ページの " プロジェクタの終了 " を参照してください。
2. **ASPECT(縦横比)**
   入力信号に合わせてイメージの縦横比を選択します。36 ページの " プリセットモードの選択 " を参照してください。
3. **SOURCE（ソース）**
   入力信号をアナログ RGB、DVI-A、DVI-D、アナログ YpbPr、S ビデオ、コンポジットビデオの順番で切り替えます。32 ページの " 入力信号の切り替え " を参照してください。
4. **▲上、▼下**
   オンスクリーンメニュー (OSD) が有効な場合、**▲上**を押すとメニュー設定を保存して終了します。**▼下**を押すと OSD メニューが開き、選択肢を 1 つ下に移動します。43 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。
5. **MUTE（ミュート）**
   プロジェクタの音声をオン / オフに切り替えます。
6. **◀ 左、▶ 右**
   投写イメージの上下のキーストーンを補正します。
   オンスクリーンメニューが有効になっているときに、選択肢を左右に移動したり、調整を行ったりします。
   詳細は、35 ページの " キーストーンの補正 " と 43 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。
7. **AUTO（自動）**
   表示画像に最適な画像設定を自動的に決定します。詳細は、33 ページの " イメージの自動調整 " を参照してください。
8. **MENU(メニュー)**
   オンスクリーンメニューをオンにします。終了し、メニューの設定を保存します。43 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。

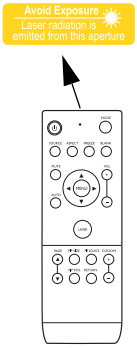
9. **PIP SIZE（PIP サイズ）**
適切な PIP サイズを選択します。
40 ページの "PIP (Picture In Picture) の操作 " を参照してください。
10. **PAGE UP/DOWN**
Page Up/Down コマンドに応答する（Microsoft PowerPoint など）ディスプレイソフトウェア（PC 上にインストール）を操作することができます。
39 ページの " リモートからのページ操作 " を参照してください。
11. **PIP POS.（PIP 位置）**
適切な PIP の位置を選択します。
40 ページの "PIP (Picture In Picture) の操作 " を参照してください。
12. **LED インジケータライト**
リモコンのボタンを押すと赤く点灯します。
13. **MODE（モード）**
選択した入力信号によって、数種類の画像設定オプションがあります。36 ページの " プリセットモードの選択 " を参照してください。
14. **FREEZE（一時停止）**
FREEZE（一時停止）ボタンを押すと、イメージが一時停止します。スクリーンの右下隅に「 ▮▮ 」アイコンが表示されます。一時停止を解除するには、**FREEZE（一時停止）**ボタンをもう一度押します。
39 ページの " 画像の静止 " を参照してください。
15. **BLANK (ブランク)**
スクリーンのイメージを消すために使用します。プロジェクタかリモコンの **BLANK**（ブランク）キーを押すと、イメージが戻ります。
39 ページの " 画像を隠す " を参照してください。
16. **VOLUME +/-（音量 +/-）**
音量レベルを調整します。
17. **レーザーポインタ**

プレゼンテーション時にレーザーライトを発します。
レーザーポインタはプレゼンテーションを行うときに使用することができます。ボタンを押すと赤い光線が放射され、同時に LED インジケータライトも赤くなります。

⚠ **警告：レーザーライトウィンドウを覗き込んだり、レーザービームを人に向けて当てたりしないでください。レーザーポインタをご使用になる前に、リモコンの裏および付属されている「ユーザー情報」に記載されている警告をお読みください。**

18. **PIP SOURCE（PIP ソース）**
適切な PIP ソースを選択します。
40 ページの "PIP (Picture In Picture) の操作 " を参照してください。
19. **DIGITAL ZOOM +/-（デジタルズーム +/-）**
投写イメージのサイズを拡大または縮小します。
20. **RETURN（戻る）**
拡大した投写画像を元のサイズに戻します。
33 ページの " 画像の詳細を表示する " を参照してください。

リモコン背面に記載されている警告



レーザー光線は目に見えるものです。レーザー光線を続けて放射するにはレーザーボタンを押し続ける必要があります。

レーザーポインタはおもちゃではありません。レーザーポインタはお子様の手の届かない場所に保管しておいてください。

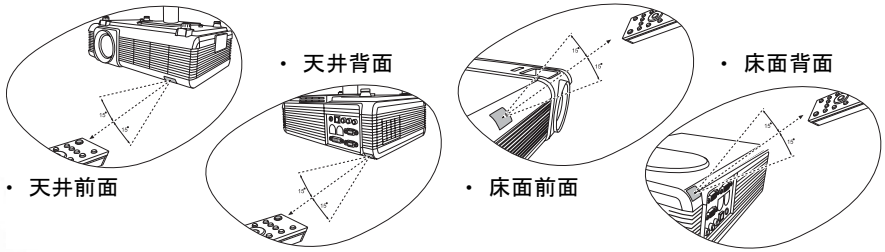
レーザーポインタを安全にお使いいただくために、リモコンの背面に記載されている警告をよくお読みください。

リモコンの有効範囲

赤外線（IR）リモコンセンサは、プロジェクタの前面と背面に 45 度の傾斜角度で設置されています。リモコンを正しく機能させるために、プロジェクタの IR リモコンセンサに対して 30 度以内でリモコンを使用するようお薦めします。リモコンとセンサの間の距離は、6 メートル（20 フィート）を超えないようにしてください。

リモコンとプロジェクタの間に赤外線を遮断する障害物がないかどうかを確認します。

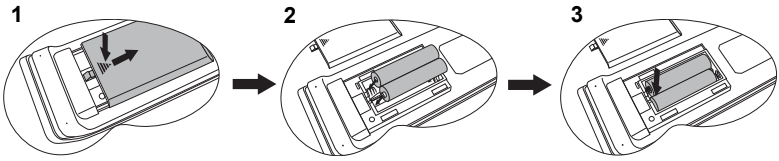
ほとんどのスクリーンは IR 光線をプロジェクタに反射しますが、必ずリモコンはプロジェクタの IR リモートセンサに向けるようにしてください。



リモートコントロールとバッテリー

1. バッテリーカバーを開くには、リモコンを裏返してカバーの溝を押し、矢印の方向にスライドさせてください。するとカバーが外れます。
2. すでに挿入されている電池を取り出し（電池がある場合）、極性に注意しながら単４電池２個を挿入してください。プラス極（+）はプラスに、マイナス極（−）はマイナスの方向に挿入してください。

3. カバーをスライドさせて元の状態に戻します。カチッという音がしたらカバーが閉まったことを意味しています。



- **リモコンや電池は台所、浴室、サウナ、サンルーム、車内など高温多湿の場所に放置しないでください。**
- **使用済みの電池は、同じタイプの電池か、メーカーが推奨する同等タイプの電池と交換してください。**
- **また、使用済みの電池はメーカーの指示および地域の環境規定にしたがって処分してください。**
- **電池は絶対に火に投げ込まないでください。爆発する恐れがあり大変危険です。**
- **電池が消耗したり、長時間リモコンを使用しない場合は、液体が漏れないようにリモコンから電池を外してください。**

3 設置

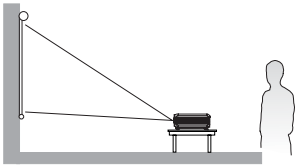
場所の選択

本機は次の 4 とおりの設置状態で使うことができます。

1. 床面前面
2. 天井前面
3. 床面背面
4. 天井背面

I. 床面前面

プロジェクタをスクリーンの正面に床面近くに設置します。これが最も一般的な設定です。

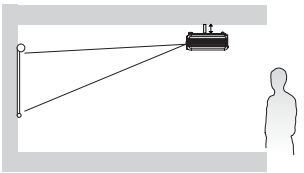


II. 天井前面

プロジェクタを上下逆さにスクリーン正面の天井に取り付けます。

この方法で設置する場合は、BenQ プロジェクタ天井取り付けキットをご購入ください。

プロジェクタをオンにしたら、「**ミラー**」>「**ソース**」メニューで を設定してください。

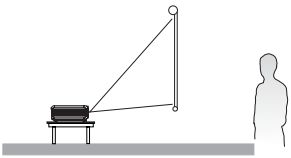


III. 床面背面

プロジェクタをスクリーン背面、床面近くに設置します。

専用の背面スクリーン投写が必要です。

プロジェクタをオンにしたら、「**ミラー**」>「**ソース**」メニューで を設定してください。

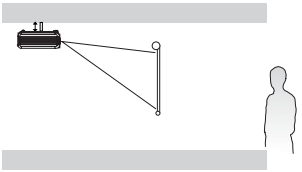


IV. 天井背面

プロジェクタを上下逆さにスクリーン背面の天井に取り付けます。

専用な背面投写スクリーンと BenQ プロジェクタ天井取り付けキットが必要です。

プロジェクタをオンにしたら、「**ミラー**」>「**ソース**」メニューで を設定してください。



部屋のレイアウトやお好みで、どの設定で設置するか決めてください。設置する際は、スクリーンのサイズや位置、電源コンセントがある場所、プロジェクタとその他の装置の距離や位置などを考慮してください。

プロジェクタを天井に取り付けるための安全のための注意

BenQ プロジェクタを安心してお使いいただくために、ここに記載する注意をよくお読みになり指示にしたがってください。

プロジェクタを天井に取り付ける場合は、BenQ プロジェクタ専用天井取り付けキットをお使いになり、しっかりと確実に設置してください。

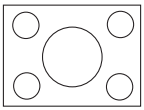
BenQ プロジェクタ以外の天井取り付けキットをお使いになると、ゲージやネジの長さが正確でないためプロジェクタが正しく固定されず落下してしまう恐れがあります。

BenQ プロジェクタ専用天井取り付けキットは、BenQ プロジェクタを購入された販売店でお買い求めいただけます。また別途ケンジントンロックをお求めになり、プロジェクタのケンジントンロックスロットと天井取り付けブラケットのベースをセキュリティケーブルでしっかりと繋いでおくことをお薦めします。このようにしておくと、万一天井取り付けブラケットが緩んでしまった場合にも、プロジェクタを補助的に支えることができます。

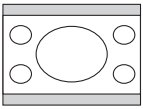
スクリーンサイズの調整

投写距離、ズーム設定、ビデオフォーマットにより投写画面サイズは変化します。

このプロジェクタの最高（ネイティブ）解像度は 1024 x 768 ピクセルであり、縦横の比率が 4：3 です。縦横比 16：9（ワイドスクリーン）の画像を完全に映し出すために、ワイドスクリーン画像をプロジェクタのネイティブ幅にリサイズすることができます。このようにすると、高さがプロジェクタのネイティブ高さの 75% に縮小されます。



縦横比 4：3 の表示エリアに投写した縦横比 4：3 の画像



縦横比 4：3 の表示エリアに投写した縦横比 16：9 の画像

したがって、縦横比 16：9 の画像はこのプロジェクタで表示できる縦横比 4：3 のうち、高さの 25% を使用せずに表示することになります。リサイズした 16：9 画像を 4：3 表示エリアの縦方向の中央に表示したとしても、4：3 表示エリアの縦方向 12.5% に相当する使用されないこの部分は、黒いバーで表示されます。

プロジェクタの位置を決定する際、使用目的および入力信号の縦横比を考慮に入れる必要があります。すべての入力信号（16：9 信号を入力するコンポーネントビデオ以外）は、4：3 の縦横比で表示されます（リサイズした 16：9 画像の表示エリアよりもさらに 33% 多い表示高さが必要です）。

重要：入力信号を選択する必要がある場合は（16：9 信号を入力するコンポジットビデオ以外）、16：9 をベースとした位置にプロジェクタを固定しないでください。

プロジェクタは必ず机の上などに水平に配置し、スクリーンの水平方向の中央に対して直角になるように設置してください。このように設置することによって、角度を付けて投写（または角度が付いた面に投写する場合）すると生じる画像の歪みを防止することができます。

新しいデジタルプロジェクタはまっすぐに画像を投写しません（例：古いリール・トゥ・リール式のフィルムのプロジェクタ）。代わりに、デジタルプロジェクタはプロジェクタの水平面に対し、やや上向きに角度を付けて投写します。これは机の上に配置したとき、スクリーンの下端が机のレベルよりも上になるよう（また室内の全員がスクリーンをはっきりと見えるように）にするためです。

プロジェクタを天井に取り付ける場合は、プロジェクタがやや下向きに角度を付けて投写するように上下逆さまに取り付ける必要があります。

22 ページの図をご覧になるとお分かりいただけるように、このタイプの投写方法では投写画像の下端がプロジェクタの水平面から縦に傾いてしまいます。天井に取り付けた場合は、投写画像の上端がこのようになります。

プロジェクタをスクリーンから遠ざけると、投写イメージのサイズが拡大され、それに伴い縦のオフセットも広がります。

スクリーンとプロジェクタの距離を決定する際は、投写距離に直接比例する投写イメージのサイズと縦オフセットのサイズも考慮する必要があります。

プロジェクタを設置するための適度な距離については、縦横比 4：3 のスクリーンサイズの表をご参照ください。設置場所を決定するときには、スクリーン中央に対し直角の水平距離（投写距離）と、スクリーンの上下端からのプロジェクタの縦オフセットの高さ（オフセット）の 2 つのサイズを考慮してください。

使用するスクリーンサイズに対しプロジェクタの設置場所を決定する

1. スクリーンサイズを選択します。
2. 表を参考にして、左側の「4:3 スクリーンサイズ」という欄から使用したいスクリーンサイズに最も近いものを探してください。この値の列を右に見ていくと、「平均」という欄に相当するスクリーンからの平均距離が記載されています。これが投写距離になります。
3. 同じ列を右に見ていくと、縦オフセット値が記載されています。この値によって、スクリーンの端からの最終的な縦オフセット位置が決定されます。
4. プロジェクタはスクリーンの水平方向の中心に対して直角に、ステップ 2 で決定したスクリーンからの距離に、さらにステップ 3 で決定したオフセット値で設置するよう推奨します。

たとえば、120 インチのスクリーンを使用する場合は、平均の投写距離は 4,432 mm、縦オフセットは 302 mm となります。

プロジェクタを別の場所に移動させると（推奨される範囲内で）、スクリーンの中央に画像が表示されるようにプロジェクタを上下に傾ける必要があります。そうすると、画像に歪みが生じる場合があります。この場合は、キーストーン機能を使用して歪みを補正します。35 ページの " キーストーンの補正 " を参照してください。

設置する距離に対し推奨するスクリーンサイズを決定する

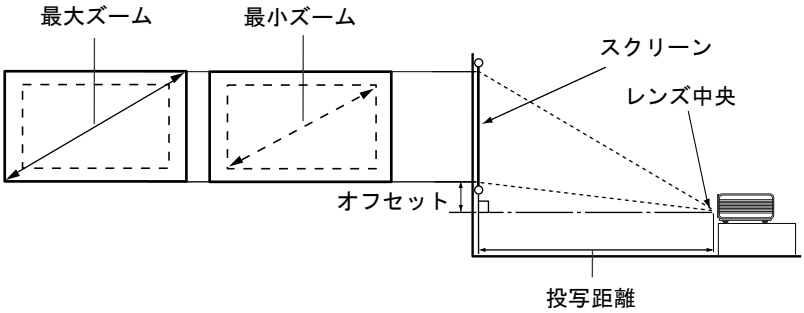
これは、プロジェクタを設置する部屋に合ったスクリーンサイズを求めるための方法です。

最大スクリーンサイズは、使用する部屋の実際のスペースが上限となります。

1. プロジェクタとスクリーンを設置したい場所までの距離を測ってください。これが投写距離になります。
2. 表を参考にして、「平均」という欄からスクリーンからの平均距離に最も近い値を探してください。測定した距離が最小距離と最大距離（平均距離値の両側に表示されています）の間にあることを確認してください。
3. この値と同じ列を左へ見ていくと、相当するスクリーンサイズを見つけることができます。これが投写距離からの投写画像サイズになります。
4. 同じ列を右に見ていくと、縦オフセット値が記載されています。この値によって、プロジェクタの水平面を基にした最終的なスクリーン設置場所が決定されます。

たとえば、測定した投写距離が 4.8 m（4,800 mm）であったとき、「平均」欄の最も近い値は 5,089 mm になります。同じ列を見ると、3,500 mm（3.5 m）が必要なスクリーンであることが分かります。大型サイズのスクリーンしか使用できない場合は、3.5 m スクリーンの両側にリストされているスクリーンサイズは 10' と 12' になっています。

これらのスクリーンサイズの最小および最大投写距離は、測定した 4.8m の投写距離を 10' スクリーンに合わせるためには短縮するか、12' スクリーンに合わせるためには延長する必要があることを示しています。このプロジェクタは同じ投写距離で、スクリーンサイズを変えて表示するように調整することもできます（ズームコントロールを使用します。）スクリーンサイズが変わると、縦オフセットの値も変わりますので注意してください。



4:3 スクリーンサイズ			スクリーンからの距離（mm）			縦オフセット（mm）
フィート	インチ	mm	最短距離（最大ズームにて）	平均	最長距離（最小ズームにて）	
4	48	1219	1652	1773	1893	121
		1500	2033	2181	2329	149
5	60	1524	2065	2216	2367	151
6	72	1829	2479	2659	2840	181
		2000	2710	2908	3106	198
7	84	2134	2892	3102	3313	211
8	96	2438	3305	3546	3787	241
		2500	3389	3635	3882	248
9	108	2743	3718	3989	4260	272
		3000	4066	4362	4659	297
10	120	3048	4131	4432	4733	302
		3500	4743	5089	5435	347
12	144	3658	4957	5318	5680	362
		4000	5421	5816	6212	396
15	180	4572	6196	6648	7100	453
		5000	6776	7270	7765	495
18	216	5486	7436	7978	8520	543
		6000	8132	8725	9317	594
25	300	7620	10327	11080	11833	754

光学部品の偏差のため、これらの数字には 3% の公差があります。プロジェクタを一定場所に固定する予定であれば、設置を行う前に実際にプロジェクタを使って投写サイズと距離を測っておかれるようお薦めします。このように準備しておくことによって、プロジェクタを最適な位置に固定することができます。

4 接続

信号ソースをプロジェクタに接続する際には、次の点を確認してください。

1. 接続を行う前にすべての機器の電源をオフにします。
2. 各ソースに正しい信号ケーブルを使用します。
3. ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認します。

☞ **下に示す接続図では、プロジェクタにケーブルは接続されていません（詳細は、10 ページの " パッケージ内容 " を参照してください）。ケーブルはお近くの電気店でお求めください。**

コンピュータまたはモニタの接続

コンピュータの接続

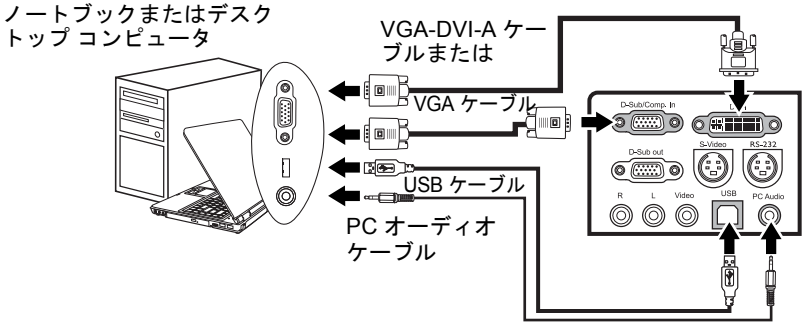
このプロジェクタには PC と接続するための VGA および DVI 入力ソケットがついています。

また USB ケーブルを使ってプロジェクタと PC を接続し、PC 上のプレゼンテーションページをプロジェクタで操作することもできます（詳細は、39 ページの " リモートからのページ操作 " を参照してください）。

プロジェクタと PC を接続するには（VGA ケーブルか VGA-DVI-A ケーブルを使用）：

• VGA ケーブルを使用した場合	• VGA-DVI-A ケーブルを使用した場合
1. 付属の VGA ケーブルをコンピュータの D-Sub 出力ソケットに接続します。 2. VGA ケーブルのもう片端をプロジェクタの D-Sub/Comp. IN 信号入力ソケットに接続します。	1. VGA-DVI-A ケーブルの VGA 側をコンピュータの D-Sub 出力ソケットに接続します。 2. VGA-DVI-A ケーブルの DVI 側をプロジェクタの DVI-I 信号入力ソケットに接続します。
3. ページ操作をリモートで行うには（詳細は、39 ページの " リモートからのページ操作 " を参照してください）、付属の USB ケーブルでコンピュータの USB ポートとプロジェクタの USB ソケットを接続してください。 4. プレゼンテーションでプロジェクタのスピーカーを使用したい場合は、適切なオーディオケーブルをコンピュータのオーディオ出力ソケットとプロジェクタの PC オーディオソケットに接続してください。 ケーブルが接続できたら、リモコン (音量 +/-) またはプロジェクタのオンスクリーン (OSD) メニューを使ってオーディオを操作することができます。詳細は、46 ページの " 音量 "、" 高音 "、" 低音 " と " ミュート " を参照してください。	

最終的には、下の図のような接続状態になります。



- **Macintosh コンピュータに接続するには、Mac アダプタ（別売のアクセサリ）が必要です。**
- **多くのノートブックでは、プロジェクタを接続すると外付けビデオポートはオンになりません。通常は「FN」+「F3」や CRT/LCD の組み合わせによって、外付けディスプレイをオン / オフにすることができます。CRT/LCD 機能キーまたは、ノートブック上でモニタ記号が示された機能キーの場所を確認します。「FN」とその機能キーを同時に押します。ノートブックのキーの組み合わせについては、ノートブックの説明書をお読みください。**

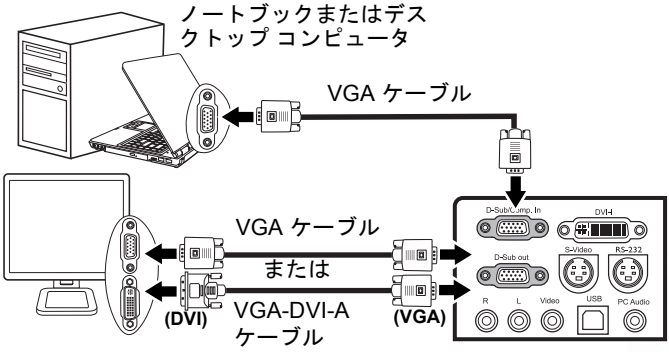
モニタの接続

ご自分のプレゼンテーションをスクリーンだけでなく、モニタにも表示して近くで画面を確認したい場合、下の図に示す通りプロジェクタの RGB 信号出力ソケットと外部モニタを VGA ケーブルまたは VGA-DVI-A ケーブルで接続できます。

プロジェクタとモニタを接続するには（VGA ケーブルか VGA-DVI-A ケーブルを使用）：

• VGA ケーブルを使用した場合：	• VGA-DVI-A ケーブルを使用した場合： **注意：モニタには DVI 入力ソケットが装備されていなければなりません。**
1. プロジェクタとコンピュータを 23 ページの " コンピュータの接続 " の手順にしたがって接続してください。	
2. 適切な VGA ケーブル（本製品に同梱されているもの）を使ってビデオモニタの D-Sub 入力ソケットに挿入します。 3. もう片端をプロジェクタの D-Sub Out ソケットに挿入します。	2. VGA-DVI-A ケーブルの DVI 側をビデオモニタの DVI 入力ソケットに繋ぎます。 3. ケーブルの VGA 側をプロジェクタの D-Sub Out ソケットに挿入します。

最終的には、下の図のような接続状態になります。



D-Sub 出力は、プロジェクタに正しく D-Sub 入力信号が送られなければ機能しません。プロジェクタとコンピュータを接続する場合は、DVI ソケットではなく、必ず D-Sub/Comp In ソケットをお使いください。

ビデオ機器との接続

本プロジェクタは次の出力ソケットのいずれかを備えたビデオ機器と接続することができます。

- (DVI)
- コンポーネントビデオ
- S ビデオ
- ビデオ（コンポジット）

上記のいずれかの方法でプロジェクタとビデオソース装置を接続してください。ただし、方法によってビデオ品質が異なります。接続方法は、プロジェクタとビデオソース装置の両方に搭載されている端末に合ったものを選択してください。

最高のビデオ品質

ソース装置に DVI ソケットが搭載されていれば、DVI 接続方法を使用することが最も理想的です。使用できる DVI コネクタの種類によって、デジタル品質または高品質なアナログビデオ品質をお楽しみいただくことができます。

プロジェクタを DVI ソースに接続する方法と、その他の説明については、27 ページの "DVI ソース装置の接続 " を参照してください。

DVI ソースを使用できない場合は、装置をコンポーネントビデオケーブル（コンポジットビデオではありません）でプロジェクタに接続する方法が理想的です。デジタル TV チューナーや DVD プレーヤーはコンポーネントビデオを出力しますので、S ビデオや（コンポジット）ビデオには使用できるならばこの方法で接続してください。

プロジェクタとコンポーネントビデオ装置の接続方法については、28 ページの " コンポーネントビデオ装置の接続 " を参照してください。

良好なビデオ品質

S ビデオは標準のコンポジットビデオよりも品質が良いアナログビデオを再現します。ビデオソース装置にコンポジットビデオと S ビデオの両出力端末が付いている場合は、S ビデオを選択してください。

プロジェクタと S ビデオ装置の接続方法については、29 ページの "S ビデオ装置の接続 " を参照してください。

標準ビデオ品質

コンポジットビデオはアナログビデオであり、見るだけなら十分です。ただしプロジェクタから投写される結果は最適値以下であり、ここで記載した方法の中では最も品質が低い方法です。

プロジェクタとコンポジットビデオ装置の接続方法については、30 ページの " コンポジットビデオ装置の接続 " を参照してください。

オーディオ接続

このプロジェクタにはビジネス用途に使用できる、データプレゼンテーションに備わった音声機能を再生できるように２個のスピーカーが内蔵されています。このスピーカーはホームシアターやホームシネマなどに求められるオーディオを再生するために設計されたものではありません。

別にサウンドシステムを使用できる場合は、ビデオソース装置のオーディオ出力とサウンドシステムを接続するとよいでしょう。

次のセクションで示すオーディオ接続図は参照としてのみ記載しています。別のサウンドシステムを使用できる場合、またはオーディオが必要でない場合は、プロジェクタにオーディオを接続する必要はありません。

DVI ソース装置の接続

このプロジェクタには DVD プレーヤーなどの DVI ソース装置、または PC などの VGA 出力装置に接続するための DVI-I 入力ソケットがついています。

DVI コネクタには 3 種類あります。それらは DVI-A, DVI-D, DVI-I です。DVI-I ソケットには DVI-A と DVI-D の両フォーマットに対応するコネクタが統合されています。

DVI-A フォーマットは DVI 信号をアナログ (VGA) ディスプレイに表示 (またはその逆) するときに使用します。信号変換の段階で信号品質が若干劣化しますが、標準の VGA 接続よりも高い品質の画像を表示することができます。

DVI-D フォーマットはデジタル信号を変換せずにデジタルディスプレイに表示するときに使用します。デジタルフォーマットの特長により、純粋なデジタル接続を行うとアナログ接続の場合よりも画質が良くなります。

DVI-A と DVI-D フォーマットは互換性がありません。したがって DVI-A フォーマットのコネクタを DVI-D 装置に接続することはできません。ケーブルを購入される前にフォーマットを確認してください。あるいは、あらゆる種類の DVI 接続で役に立つ DVI-I ケーブルを購入することもできます。

ソース装置に未使用の DVI または VGA(D-Sub) 出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

ある場合は、手続きを続けてください。

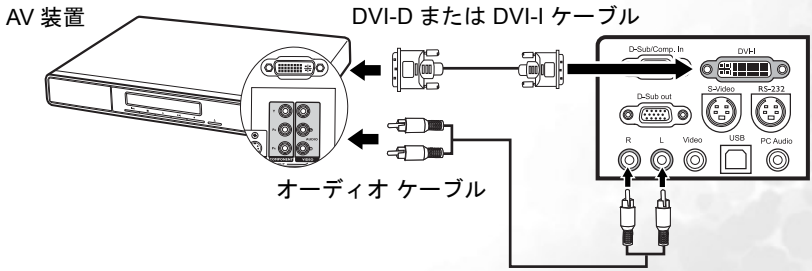
ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

プロジェクタを DVI ケーブルで DVI ソース装置に接続するには：

DVI ソース装置を VGA — DVI-A ケーブルを使ってコンピュータに接続する方法については、23 ページの " コンピュータの接続 " を参照してください。

1. DVI (DVI-D または DVI-I) ケーブルを DVI ソース装置の DVI 出力ソケットに接続します。
2. ケーブルのもう片端をプロジェクタの DVI-I 信号入力ソケットに差し込んでください。
3. プロジェクタのスピーカーを使用したい場合は、適切なオーディオケーブルをビデオ装置のオーディオ出力ソケットとプロジェクタの PC オーディオソケットまたはオーディオ L/R ソケットに接続してください。
   ケーブルが接続できたら、リモコン (音量 +/-) またはプロジェクタのオンスクリーン (OSD) メニューを使ってオーディオを操作することができます。詳細は、46 ページの " 音量 "、" 高音 "、" 低音 " と " ミュート " 参照してください。

最終的には、下の図のような接続状態になります。



コンポーネントビデオ装置の接続

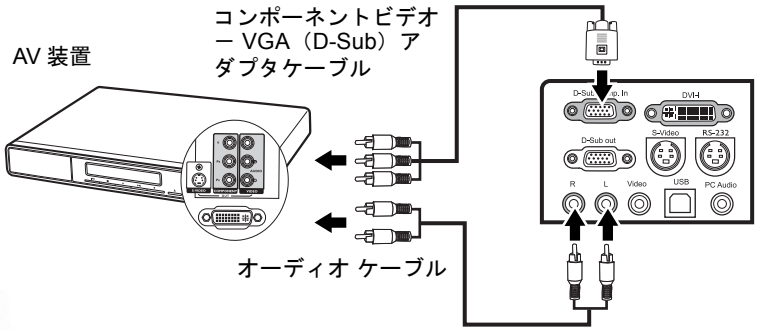
ビデオソース装置に未使用のコンポーネントビデオ出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

プロジェクタをコンポ - ネントビデオ装置に接続するには

1. （オプションアクセサリの）コンポーネントビデオ－ VGA（D-Sub）アダプタケーブルの 3 個の RCA タイプコネクタが付いた方をビデオソース装置のコンポーネントビデオ出力ソケットに差し込んでください。プラグの色とソケットの色を合わせてください（緑は緑と、青は青と、赤は赤と）。
2. コンポーネントビデオ－ VGA（D-Sub）アダプタケーブルのもう片端（D-Sub タイプコネクタが付いた方）をプロジェクタの D-Sub/Comp In ソケットに差し込みます。
3. プロジェクタのスピーカーを使用したい場合は、適切なオーディオケーブルをビデオ装置のオーディオ出力ソケットとプロジェクタのオーディオ L/R ソケットに接続してください。
   ケーブルが接続できたら、リモコン (音量 +/-) またはプロジェクタのオンスクリーン (OSD) メニューを使ってオーディオを操作することができます。詳細は、46 ページの " 音量 "、" 高音 "、" 低音 " と " ミュート " を参照してください。

最終的には、下の図のような接続状態になります。



プロジェクタを高精度 TV（HDTV）チューナーに接続する場合は、次の規格がサポートされています。

- 480i
- 576i
- 720p（50/60 Hz）
- 480p
- 576p
- 1080i（50/60 Hz）

• ネイティブ 16 : 9 ピクチャを表示できるビデオ出力は、コンポーネントビデオだけです。

• 電源をオンにしても選択したビデオイメージが表示されず、正しいビデオソースが選択されている場合、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。

S ビデオ装置の接続

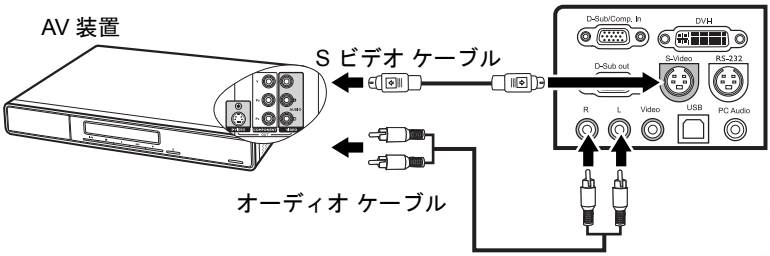
ビデオソース装置に未使用の S ビデオ出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

プロジェクタを S ビデオ装置に接続するには :

1. S ビデオケーブル（オプションアクセサリ）をビデオソース装置の S ビデオ出力ソケットに差し込んでください。
2. S ビデオケーブルのもう片端をプロジェクタの S ビデオソケットに差し込んでください。
3. プロジェクタのスピーカーを使用したい場合は、適切なオーディオケーブルをビデオ装置のオーディオ出力ソケットとプロジェクタのオーディオ L/R ソケットに接続してください。
   ケーブルが接続できたら、リモコン (音量 +/-) またはプロジェクタのオンスクリーン (OSD) メニューを使ってオーディオを操作することができます。詳細は、46 ページの " 音量 "、" 高音 "、" 低音 " と " ミュート " を参照してください。

最終的には、下の図のような接続状態になります。



- **電源をオンにしても選択したビデオイメージが表示されず、正しいビデオソースが選択されている場合、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。**
- **コンポーネントビデオ接続方式によりプロジェクタとこの S ビデオソース装置をすでに接続してある場合は、S ビデオ接続方式でこの装置を接続すると不要に 2 つめの接続が生じ、画質が悪くなるため、この装置を接続する必要はありません。詳細は、26 ページの " ビデオ機器との接続 " を参照してください。**

コンポジットビデオ装置の接続

ビデオソース装置に未使用のコンポジットビデオ出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

プロジェクタをコンポジットビデオ装置に接続するには :

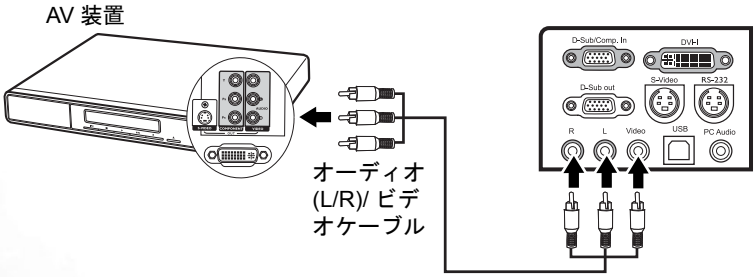
プロジェクタのスピーカーを使用するには

1. オーディオ / ビデオケーブルで使って、3 RCA タイプのコネクタをビデオソース装置のオーディオ (R/L)/ ビデオ出力ソケットに差し込みます。プラグの色とソケットの色を合わせてください（緑は緑と、青は青と、赤は赤と）。
2. オーディオ / ビデオケーブルのもう片端をプロジェクタのオーディオ (R/L)/ ビデオソケットに差し込んでください。プラグの色とソケットの色を合わせてください（緑は緑と、青は青と、赤は赤と）。
   ケーブルが接続できたら、リモコン (音量 +/-) またはプロジェクタのオンスクリーン (OSD) メニューを使ってオーディオを操作することができます。詳細は、46 ページの " 音量 "、" 高音 "、" 低音 " と " ミュート " を参照してください。

プロジェクタのビデオ機能だけを使用する場合

1. ビデオケーブルをビデオソース装置のビデオ出力ソケットに差し込んでください。
2. ビデオケーブルのもう片端をプロジェクタのビデオソケットに差し込んでください。

最終的には、下の図のような接続状態になります。

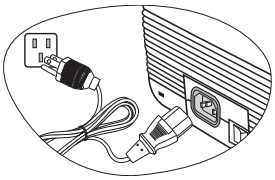


- **電源をオンにしても選択したビデオイメージが表示されず、正しいビデオソースが選択されている場合、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。**
- **コンポーネントビデオ入力と S ビデオ入力を使用できない場合に限り、コンポジットビデオ接続方式で接続してください。詳細は、26 ページの " ビデオ機器との接続 " を参照してください。**

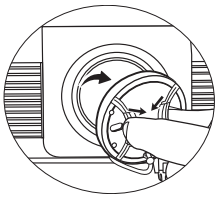
5 操作

起動

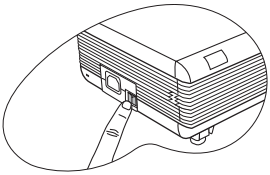
1. 電源コードをプロジェクタとコンセントに差し込みます。コンセントのスイッチをオンにします（該当する場合）。



2. レンズ キャップを取り外します。キャップを付けたままにしておくと、プロジェクタのランプから発生する熱によりキャップが変形してしまいます。

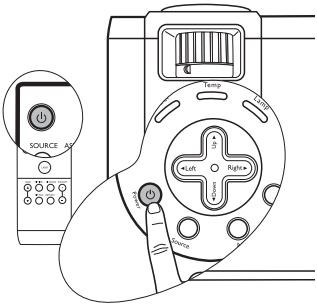


3. メインの電源スイッチをオンにしてください。すると**電源インジケータ**がオレンジ色に点灯します。



4. リモコンまたはプロジェクタの Power（**電源**）ボタンを 2 秒間押し続けてプロジェクタを起動します。**電源インジケータ ライト**が緑色に点滅し、電源がオンになると、緑色のまま点灯します。

   起動処理には、Power（**電源**）を押してから約 30 秒かかります。起動処理の後半に、デフォルトの BenQ ロゴが表示されます。

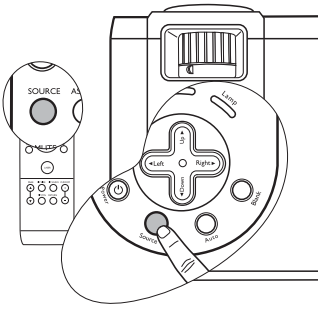


5. 接続されているすべての機器の電源をオンにします。
6. プロジェクタは入力信号の検索を開始します。スキャンされている入力ソースがスクリーン右下隅に表示されます。入力ソース信号が検出されるまで検出が続行されます。

   プロジェクタまたはリモコンの SOURCE（**ソース**）を押して表示する入力信号を選択することもできます。詳細は、32 ページの " 入力信号の切り替え " を参照してください。

入力信号の周波数 / 解像度がプロジェクタの動作範囲を超えた場合、「Out of Range 範囲外」というメッセージが消画スクリーンに表示されます。プロジェクタの解像度に合った入力信号に変えてください。60 ページの " タイミングチャート " を参照してください。

入力信号の切り替え



プロジェクタは同時に複数の装置に接続することができます。ただし一度に表示できる装置は 1 台です。有効な入力ソースを切り替えるには、プロジェクタかリモコンの **SOURCE（ソース）**を押してください。選択したソース名は、スクリーンの右下隅にボタンを押してから 3 秒間表示されます。

このプロジェクタには、一度に 2 つの信号を表示できる PIP 機能があります。40 ページの "PIP (Picture In Picture) の操作 " を参照してください。

入力信号を変えると、そのたびに投写イメージの輝度も変わります。通常ほとんどが静止画を使ったデータ（グラフィック）PC プレゼンテーションは、ほとんどが動画（ムービー）のビデオよりも明るくなります。別の信号入力に切り替えたときには、最高の状態で画像が表示されるように環境の照明を調整する必要があります。

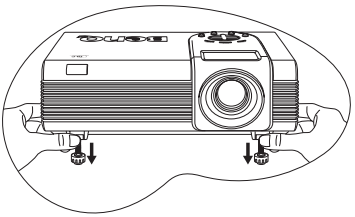
入力タイプによって、プリセットモードで有効なオプションが変わります。詳細は、36 ページの " プリセットモードの選択 " を参照してください。

投写イメージの調整

投写角度の調整

プロジェクタには、クイック リリース アジャスタ フットが 2 つ、背面アジャスタ フットが 2 つ備え付けられています。これらのアジャスタを使って、イメージの高さと投写角度を調整します。プロジェクタを調整するには、次の手順にしたがってください。

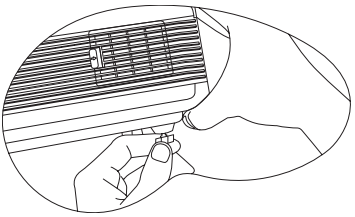
1. クイックリリースボタンを押して、プロジェクタの手前を持ち上げてください。映像が正常な状態に表示されたら、クイックリリースボタンを放してフロントアジャスタ フットをロックします。



⚠ ランプが点灯しているときには絶対にレンズを覗かないでください。ランプからは強い光が発されており、目を傷つける場合があります。

アジャスタボタンは熱風が出る排気孔の近くにありますので、このボタンを押すときには注意してください。

2. 背面アジャスタ フットを回して、水平角度を微調整します。



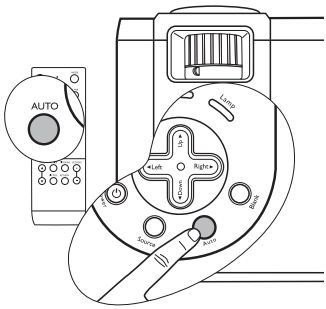
フットを縮めるには、クイックリリース ボタンを押しながらプロジェクタを持ち上げて、ゆっくりとプロジェクタを下ろします。背面アジャスタフットを逆方向に回します。

スクリーンとプロジェクタが垂直になっていなければ、投影画像は縦に歪みます。これを補正するには、プロジェクタのコントロール パネルまたはリモコンのディスプレイメニューでキーストーンの値を調整します。35 ページの " キーストーンの補正 " を参照してください。

イメージの自動調整

場合によっては、画質を最適化する必要が生じることもあります。これを実行するには、プロジェクタかリモコンの AUTO（**自動**）ボタンを押します。組み込みのインテリジェント自動調整機能により周波数およびクロックの値が再調整され、3 秒以内に最適な画質が得られます。

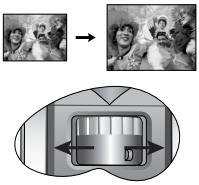
下図のように、現在のソース情報がスクリーンの右下隅に 3 秒間表示されます。



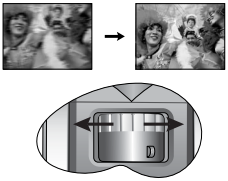
AUTO（自動）が機能している間、スクリーンは消画の状態になります。

画像サイズと明瞭さの微調整

1. 投写されたイメージのサイズを調整するには、ズームリングを使用します。

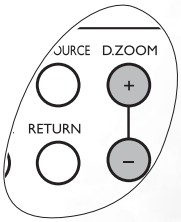


2. 次にピントリングを回して焦点を合わせます。



画像の詳細を表示する

投写画像の詳細を表示する必要がある場合は、リモコンの D.ZOOM + を押すと、画像の中央部が拡大されます。再び + ボタンを押すと、画像がさらに拡大されます。画像の各部分を見るには、プロジェクタかリモコンの方向矢印（▲、▼、◀、▶）をお使いください。D. ZOOM - を押すと画像が縮小されます。再び - ボタンを押すと画像がさらに縮小され、最後には元のサイズに戻ります。リモコンの RETURN（**戻す**）を押しても画像を元のサイズに戻すことができます。



問題はありませんか？

ディスプレイに関する他の問題については、57 ページの " トラブルシューティング " を参照してください。

縦横比の選択

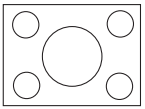
縦横比とは、イメージの幅と高さの比率のことです。ほとんどのアナログ TV とコンピュータの画面の縦横比率は 4:3 です。これはこのプロジェクタのデフォルト値に設定されています。デジタル TV の場合は 16:9 です。

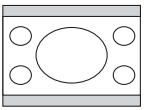
投写画像の比率は、リモコンの **ASPECT（縦横比）**を押すと変更できます（ソースの縦横比がどちらであっても）。信号のフォーマットとディスプレイの条件に合わせて適切な縦横比を選択してください。

選択した入力ソースが YPbPr, YCbCr, DVI-D, S ビデオ , ビデオの場合、２種類の縦横比から選択することができます。**ASPECT（縦横比）**を１回押すと現在の設定が表示され、もう一度同じボタンを押すともうひとつの設定に変わります。または

 **Image（画像）**> **Auto Resize（自動サイズ調整）**を選択して、プロジェクタかリモコンで **◀ 左 / ▶ 右**を押すと２つのオプションが切り替わります。

☞ **下の図ではグレーの部分が無効になったエリアで、白い部分が有効なエリアです。**





1. 4:3：スクリーンの中央が 4:3 の縦横比になるようにイメージを調整します。これは縦横比を変更せずにすむため、コンピュータモニタ、標準精度の TV、縦横比 4:3 の DVD ムービーなどの 4:3 画像に適しています。
2. 16:9 (デフォルト)：スクリーンの中央が 16:9 の縦横比になるようにイメージを調整します。この設定は、縦横比を変更する必要がないため高精度 TV など、すでに縦横比が 16:9 になっている画像に適しています。

☞ **縦横比 16：9 は正しい 16：9 信号が入力されているときに、コンポーネントビデオ入力を介してしか表示することができません。詳細は、28 ページの " コンポーネントビデオ装置の接続 " と 20 ページの " スクリーンサイズの調整 " を参照してください。**

選択した入力ソースがアナログ RGB, DVI-A, DVI-D の場合は、**ASPECT（縦横比）**を押すと自動サイズ調整機能がオン / オフになります。または画像の縦横比が 16:9 になります。

ASPECT（縦横比）を１回押すと現在の設定が表示され、もう一度同じボタンを押すと別の設定に変わります。または  **Image（画像）**> **Auto Resize（自動サイズ調整）**を選択して、プロジェクタかリモコンで **◀ 左 / ▶ 右**を押すと３つのオプションが切り替わります。

1. **オン**：これはプロジェクタのデフォルト値に設定されています。入力信号のピクセル解像度がプロジェクタの最高解像度（1024 x 768）に変換されます。低解像度の入力信号では、投写する前にピクセル間のギャップが自動的に補間されます。これにより画像の鮮明さが失われる場合があります。ソース画像の解像度がプロジェクタの解像度と同じ場合 (1024 x 768) は、オンに設定しても何も変わりません。
2. **オフ**：画像はピクセルの変換を行わず、元の解像度のまま投写されます。低解像度の入力信号では、投写画像はフルスクリーンサイズにリサイズした場合よりも小さいサイズで表示されます。ズーム倍率を調整するか、プロジェクタをスクリーンに近づけると画像サイズを拡大することができます。このような調整を行った後は、プロジェクタのフォーカスを調整し直す必要があるかもしれません。
3. **16:9**：スクリーンの中央が 16:9 の縦横比になるようにイメージを調整します。

画像の最適化

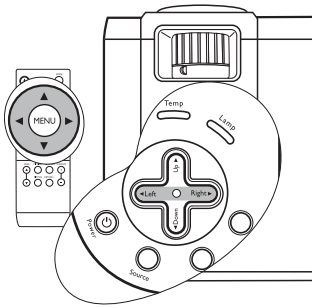
画像を最適化するには、プロジェクタかリモコンのボタンを使って画像の設定を直接調整するか、オンスクリーンメニュー (OSD) で設定を変更してください。OSD メニューの操作については、43 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。

次の操作は任意で行うことができます。必ずしもすべての手順に従う必要はありません。画質の状態によって調整を行ってください。

キーストーンの補正

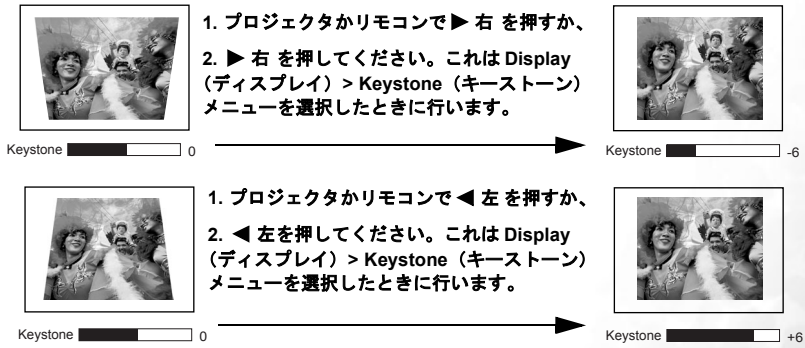
キーストーンとは、投写イメージの上部または下部が大きく広がってしまう状態のことです。プロジェクタがスクリーンに対して垂直でない場合に発生します。

これを補正するには、プロジェクタの投写角度の調整とは別に、次のいずれかの手順に従い、手動で補正する必要があります。

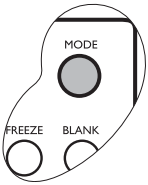


- プロジェクタかリモコンで◀ **左** /▶ **右** を押すと、「キーストーン」と表示されたステータスバーが表示されます。イメージの上部のキーストーンを補正する場合は、▶ **右**を押します。イメージの下部のキーストーンを補正する場合は、◀ **左**を押します。
- プロジェクタかリモコンの **MENU（メニュー）**を押します。プロジェクタかリモコンで◀ **左** /▶ **右**を押して、 **Display（ディスプレイ）** > **Keystone（キーストーン）**を選択して値を調整してください。

以下に例を示します。



プリセットモードの選択



このプロジェクタは操作環境や入力ソースの画像タイプによって自由に選択できるように、いくつかのアプリケーションモードが設定されています。必要に応じて操作モードを選択するには、リモコンの **Mode（モード）**を押してください。信号タイプごとに使用できる画像モードは次の通りです。

PC/DVI-A 信号入力

- **プレゼンテーションモード（デフォルト）**：プレゼンテーションに向いています。このモードでは PC の色に合わせて輝度が強調されます。
- **ビビッドモード**：ゲームに最適です。彩度と輝度のバランスが良い点が特長です。
- **ビデオモード**：自然な色でイメージが表示されるので、映画を観るのに適しています。
- **省電力モード**：システムのノイズを減らすためにはこのモードを使用します。消費電力が 20% 節減されます。ライトも暗くなるためランプの寿命も長くなります。

YPbPr/YCbCr/DVI-D/S ビデオ / ビデオ信号入力

- **ゲームモード**：このモードは普通のリビングルームの照明でゲームボックスベースのビデオゲームを楽しむのに適しています。
- **ビデオモード**：高めの色温度で TV 映画を観る場合に適しています。
- **シネマモード**：このモードは暗くしたホームシネマルームやラウンジなどで DVD ムービーを楽しむのに適しています。
- **省電力モード**：システムのノイズを減らすためにはこのモードを使用します。消費電力が 20% 節減されます。ライトも暗くなるためランプの寿命も長くなります。

その他の調整

プリセットモードの画質では満足できない場合は、オンスクリーンメニュー（OSD）を使っていくつかの設定を手動で調整することができます。

明るさの調整

プロジェクタかリモコンの **Menu（メニュー）**を押します。プロジェクタかリモコンで **◀ 左 /▶ 右** を押して、**Display（ディスプレイ）**> **Brightness（輝度）**を選択して値を調整してください。

値を高くするほどイメージの輝度が増加します。設定値が小さいほどイメージは暗くなります。このコントロールを調整すると、イメージの黒い領域が黒く表示されるため、暗い領域の詳細が見えるようになります。



コントラストの調整

プロジェクタかリモコンの **Menu（メニュー）**を押します。プロジェクタかリモコンで **◀ 左 /▶ 右** を押して、**Display（ディスプレイ）**> **Contrast（コントラスト）**を選択して値を調整してください。

値を高くするほどコントラストが増加します。選択した入力と表示環境に合わせて輝度を調整した後、これを使って白のピークレベルを設定することができます。



色温度の選択

プロジェクタかリモコンの **Menu（メニュー）**を押します。プロジェクタかリモコンで **◀ 左 /▶ 右** を押して、**Image（画像）**> **Color Temp（色温度）**を選択して値を調整してください。

値を高くするほど青白いイメージになります。逆に値を低くするほど赤みがかった白いイメージになります。

色温度について：

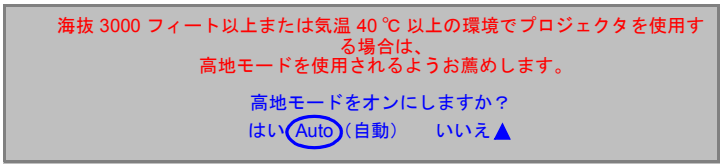
用途に応じて「白」とみなされる色合いが多数存在します。白色を表すためによく使用される方法の 1 つに「色温度」があります。色温度の低い白色は赤みがかった白で表示されます。色温度の高い白色は青みがかって表示されます。

高地での操作

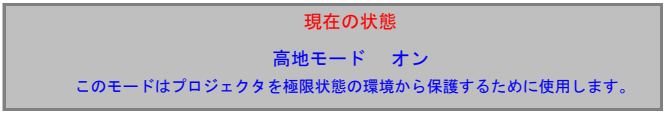
海抜 3000 フィート以上、気温 40°C 以上の環境、またはプロジェクタをシャットダウンせずに連続して長時間 （>10 時間以上）使用する場合は、このモードを選択されるようお薦めします。

高地モードに設定するには、プロジェクタかリモコンで◀ **左** /▶ **右**を押して、

 **Control（コントロール）** > **High Altitude Mode（高地モード）**を選択し、次に**オン** を選択してください。確認のメッセージが表示されます。**Auto（自動）**を押してください。



次回プロジェクタの電源を入れると、スタートアップ中に下のようなメッセージが表示されます。



高地モードを選択した場合は、システムの性能を維持するために冷却ファンが回転速度を速めるために操作ノイズが高くなる場合があります。

上記の場合を除き、その他の極限環境でプロジェクタを使用すると、プロジェクタが自動的にシャットダウンする場合があります。これはプロジェクタを過熱から保護するために設置された機能です。このような場合は、高地モードに切り替えてみてください。これは、このプロジェクタが極限状態でも操作可能であるということを保証するものではありません。

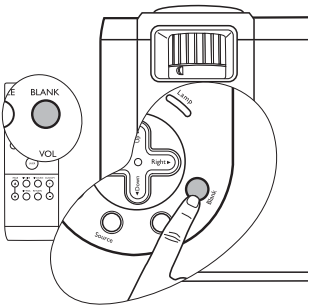
プロジェクタのメニューディスプレイのカスタマイズ

オンスクリーン ディスプレイメニューは操作環境に応じて設定することができます。次の設定は投射設定、操作、性能には影響しません。

- **Control（コントロール）** > **OSD** メニューの OSD 時間では、ボタンを押してからの OSD の表示時間を設定します。設定は５秒毎に 5 から 60 秒までの範囲で設定できます。
- **Control（コントロール）**メニューでは OSD メニューの言語を設定することができます。プロジェクタかリモコンの ◀ **左** / ▶ **右** を使って、言語を選択してください。
- **Control（コントロール）** > **Setup（設定）**メニューの User Logo（ユーザーロゴ）では、プロジェクタ起動時に画面に表示するロゴを設定します。

画像を隠す

Blank（ブランク）を使用すると必要に応じて投写画像を消すことができるため、聴衆の関心をすべて講演者または注目して欲しい他の対象に向けることができます。イメージが非表示になると、スクリーンの右下隅に、「**BLANK（ブランク）**」と表示されます。有効なオーディオ入力を使用している場合は、この機能を使用してもサウンドは流れたままになります。プロジェクタかリモコンでどれでもキーを押すと、画像が元に戻ります。

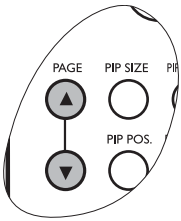


Control（コントロール）>**Setup（設定）**>**Blank Time（ブランク時間）**を設定すると、一定時間消画スクリーン状態で何もしなかった場合に、自動的にプロジェクタがシャットダウンするように設定できます。

投写中に投写レンズを他の物体で覆わないでください。その物体が過熱し、火災の原因となり危険です。

リモートからのページ操作

この機能を使用する前に、プロジェクタと PC またはノートブック PC を USB ケーブルで接続します。詳細は、23 ページの " コンピュータの接続 " を参照してください。

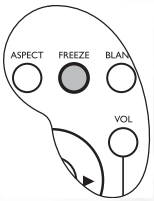


Page Up/Down コマンドに応答する（Microsoft PowerPoint など）ディスプレイソフトウェア（PC 上にインストール）は、リモコンの **PAGE** ▲ や ▼ ボタンを使って操作することができます。

ページ移動をリモート操作できない場合は、USB 接続が正しく行われているか、また最新バージョンのマウスドライバがコンピュータにインストールされているかを確認してください。

画像の静止

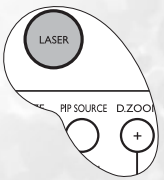
投写画像は、リモコンの **FREEZE（一時停止）**を押すと静止します。スクリーンの右下隅に ⏸ アイコンが表示されます。一時停止を解除するには、リモコンの **FREEZE（一時停止）を押した後、RETURN（戻る）**ボタンを押すか、プロジェクタまたはリモコンの **SOURCE（ソース）**ボタンを押してください。**Source（ソース）**ボタンを押すと入力ソースも変わりますので注意してください。



スクリーン上でイメージが静止しても、ビデオやその他の装置で映像は流れつづけています。接続した装置に有効なオーディオが含まれている場合は、画像が静止しても音声は聞くことができます。

レーザーポインタの使い方

レーザーポインタはプレゼンテーションを行うときに使用することができます。ボタンを押すと赤い光線が放射され、同時に LED インジケータライトは緑色になります。



⚠ **警告：レーザーライトウィンドウを覗き込んだり、レーザービームを人に向けて当てたりしないでください。レーザーポインタをご使用になる前に、リモコンの裏および付属されている「ユーザー情報」に記載されている警告をお読みください。**

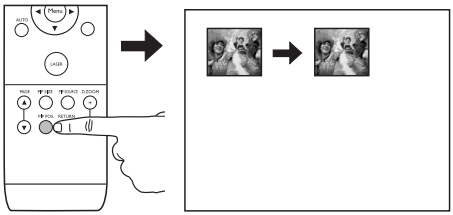
PIP (Picture In Picture) の操作

本機は２台の入力ソースからの信号を同時に表示することができます。この機能を効率的に活用することによって、プレゼンテーション効果を飛躍的に高めることができます。

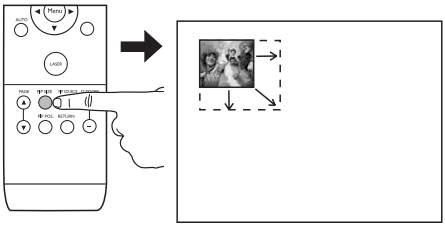
これらの機能は PC からソースを入力し、PIP ソースがビデオか S ビデオの場合にのみ使用することができます。

リモコン操作

1. PC とビデオまたは S ビデオ信号がプロジェクタに正しく接続されていることを確認します。
2. スクリーンに PC を投写します。
3. リモコンの **PIP-SOURCE(PIP ソース)** ボタンを押して、PIP フレームを表示します。２回目に **PIP-SOURCE（PIP ソース）** を押してしばらくすると、画面に PIP 画像が表示されます。
4. PIP 画像の位置を調整するには、適切に表示されるまで繰り返し **PIP-POS (PIP 位置)** ボタンを押してください。



5. PIP 画像をリサイズするには、繰り返し **PIP サイズ (PIP-SIZE)** ボタンを押してください。サイズは大、中、小、オフの４つのオプションの中から選択することができます。



オンスクリーンメニュー（OSD）からは、他の機能も選択できます。

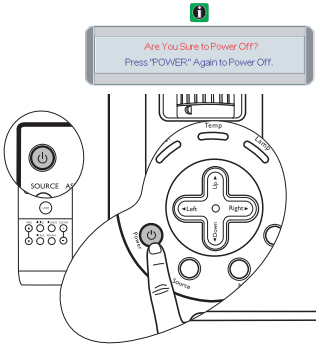
OSD メニューの操作

1. OSD メニューを有効にするには、プロジェクタで**▼Menu（メニュー）**を押すか、リモコンの **MENU（メニュー）** を押してください。

2. プロジェクタかリモコンの **◀ 左** / **▶ 右** を使って、**PIP** メニューを選択します。
3. プロジェクタの**▼Menu（メニュー）**か、リモコンの**▼下**を使って、PIP 調整機能をハイライト表示します。48 ページの "PIP メニュー " を参照してください。

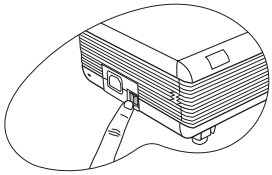
プロジェクタの終了

1. **Power（電源）**を押すと、右図のように確認メッセージが表示されます。
   数秒以内に応答しなければ、メッセージは自動的に消えます。
2. **Power（電源）**をもう一度押すと、プロジェクタの電源がオフになります。
   Power（電源）インジケータライトがオレンジ色に点滅して投写ランプが消灯した後、プロジェクタを冷却するためにファンが約 90 秒間動作を続けます。

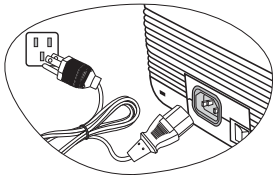


ランプを保護するため、冷却プロセスの間はプロジェクタはいかなるコマンドにも反応しません。

3. メインの電源スイッチをオフにしてください。



4. 電源コードをコンセントとプロジェクタから外します。



プロジェクタ終了手順が完了する前、または 90 秒間の冷却プロセスの間は、電源コードを抜かないでください。

プロジェクタの終了方法が不適切な場合、数時間以内にプロジェクタを再起動しようとすると、ランプを保護するため、数分間ファンが動作して冷却します。プロジェクタを起動するには、ファンが停止した後でもう一度、電源を押します。

OSD (On-Screen Display) メニューの操作

OSD メニューシステム

	受信信号のタイプにより使用可能な機能			
メインメニュー	**アナログRGB / DVI-A**	**DVI-D**	**YPbPr (480p/ 576p/ 720p/ 1080i)**	**YCbCr (480i/ 576i) / S ビデオ / ビデオ**
 **ディスプレイ**	キーストーン 輝度 コントラスト 位相 水平サイズ ランプ時間	キーストーン 輝度 コントラスト ランプ時間	キーストーン 輝度 コントラスト 位相 水平サイズ ランプ時間	キーストーン 輝度 コントラスト 色 色合い ランプ時間
 **画像**	自動サイズ調整 水平位置 垂直位置 色温度 情報	自動サイズ調整 色温度 情報	比率 水平位置 垂直位置 色 色合い 色温度	比率 システム シャープネス 色温度 情報
 **ソース**	ミラー ソース 音量 高音 低音 ミュート			
 **コントロール**	言語 OSD -- OSD 位置 , OSD 時間 設定 -- ソーススキャン、キーストーンホールド、ミラーホールド、消画時間、自動電源オフ、ユーザーロゴ プリセットモード -- (PC/DVI-A 信号入力) プレゼンテーションモード、鮮明モード、ビデオモード、省電力モード (YPbPr/YCbCr/DVI-D/S ビデオ / ビデオ信号入力) ゲームモード、ビデオモード、シネマモード、省電力モード リセット 高地			
 **PIP**	**メインページ :** PIP ソース PIP サイズ PIP 位置 水平位置 垂直位置 追加オプション	**サブページ :** 輝度 コントラスト 色 色合い シャープネス システム		N/A

* ビデオまたは S ビデオ信号が接続されているときには、この機能は NTSC 規格が選択されているときにしか使用することができません。

メニューの使用方法

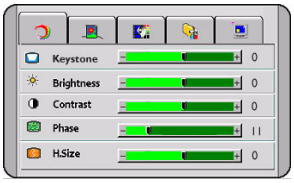
プロジェクタは、On-Screen Display（OSD）メニューを備えており、各種の調整や設定が行えます。

OSD メニューは、選択した信号のタイプにより異なります。

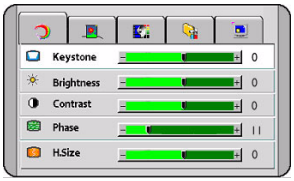
メニュー言語は 10ヶ国語用意されています。47 ページの " コントロールメニュー " を参照してください。

次の例では、キーストーンの調整を説明しています。

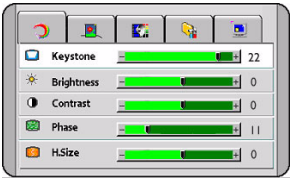
1. OSD メニューを有効にするには、プロジェクタで▼**Menu（メニュー）**を押すか、リモコンの **MENU（メニュー）**を押してください。



2. プロジェクタかリモコンの **◀ 左** / **▶ 右** を使って、 **Display（ディスプレイ）**メニューを選択します。
3. プロジェクタで▼**Menu（メニュー）**を押すか、リモコンの▼**下**を押して **Keystone（キーストーン）**を選択します。



4. プロジェクタかリモコンの **◀ 左** / **▶ 右**を押して、キーストーン値を調整してください。



5. プロジェクタの▲**Exit（終了）**を押すか、リモコンの **Menu（メニュー）**を２回 * 押して設定を保存し、メニューを終了します。

***1 回目にはメインメニューに戻り、2 回目に OSD メニューが閉じます。**

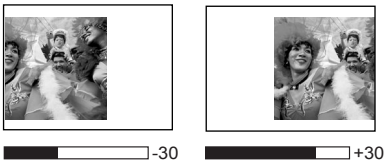
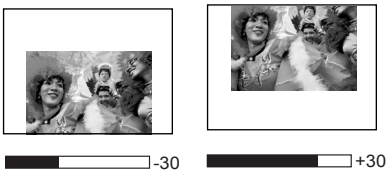
ディスプレイメニュー

☞ **項目によっては、特定の入力ソースを使用している場合にしか調整できないものもあります。調整できない項目はスクリーンには表示されません。**

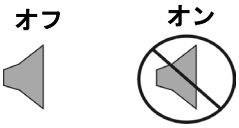
機能 （デフォルト / 設定値）	説明
キーストーン (0)	イメージのキーストーンを補正します。詳細は、35 ページの " キーストーンの補正 " を参照してください。
輝度 (0)	イメージの輝度を調整します。37 ページの " 明るさの調整 " を参照してください。
コントラスト (0)	イメージの明るさと暗さの差を調整します。37 ページの " コントラストの調整 " を参照してください。
位相 （選択した入力ソースによって変わります）	この機能を使用すると、クロック位相を調整して、イメージの歪みを減少させることができます。
水平サイズ (0)	イメージの幅を調整します。
ランプ時間	ランプの使用時間数を表示します。
色 (0)	イメージの色強度を増減します。
色合い (0)	イメージの色調を調整します。値を高くするほど赤みがかったイメージになります。値を低くするほど緑がかったイメージになります。

画像メニュー

項目によっては、特定の入力ソースを使用している場合にしか調整できないものもあります。調整できない項目はスクリーンには表示されません。

機能（デフォルト / 設定値）	説明
自動サイズ調整 （オン）	入力信号のピクセル解像度をプロジェクタの最高解像度に自動的にリサイズします。34 ページの " 縦横比の選択 " を参照してください。
水平位置 (0)	投写画像の水平位置を調整します。 
垂直位置 (0)	投写画像の垂直位置を調整します。 
色温度 （選択した入力ソースによって変わります）	白を調整します。37 ページの " 色温度の選択 " を参照してください。
情報	現在の画像の解像度を表示します。
比率 (4:3)	画像比率には２つのオプションがあります。 1. 4:3 (標準スクリーン用) 2. 16:9 (ワイドスクリーン用) 34 ページの " 縦横比の選択 " を参照してください。
色 (0)	イメージの色強度を増減します。
色合い (0)	イメージの色調を調整します。値を高くするほど赤みがかったイメージになります。値を低くするほど緑がかったイメージになります。
システム	ビデオ入力システムの形式が NTSC、PAL、SECAM、YUV のいずれかを表示します。
シャープネス (0)	イメージがシャープまたはソフトになるように調整します。

ソースメニュー

機能 （デフォルト / 設定値）	説明
ミラー （床面前面）	プロジェクタは、天井またはスクリーンの背後に設置したり、1 枚あるいは複数のミラーを使用して設置することができます。プロジェクタを天井に設置する場合は、販売店に連絡して、天井取り付け用ブラケット（別売りアクセサリ）をお求めください。詳細は 18 ページの " 場所の選択 " と 19 ページの " プロジェクタを天井に取り付けるための安全のための注意 " を参照してください。
ソース	現在の信号ソースを表示します。
音量 (5)	音量を調整します。 
高音 (0)	高音レベルを調整します。(-5 ~ 5) 
低音 (0)	低音レベルを調整します。(-5 ~ 5) 
ミュート （オフ）	**オフ** **オン** 

コントロールメニュー

機能（デフォルト / 設定値）	説明（デフォルト / 設定値）
言語 （英語）	OSD コントロール メニューの言語を設定します。 **◀ 左 /▶ 右**ボタンを使って、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、中国語（繁体字）、中国語（簡体字）、日本語、韓国語の中から言語を選択してください。
OSD	**OSD 位置**（中央－下） OSD の位置を選択します。
	OSD 時間 (10) ボタンを押してからの OSD の表示時間を設定します。5 ～ 60 秒の範囲で設定できます。
設定	**ソーススキャン**（オン） プロジェクタで自動的に入力信号を検索するかどうかを設定します。ソーススキャンがオンの場合、プロジェクタは信号を取得するまで入力信号を検索します。この機能が有効になっていない場合は、最後に使用した入力信号が選択されます。
	キーストーンホールド (0) このオプションを選択すると、プロジェクタを再起動しても最後に設定したキーストーン補正値が維持されます。
	ミラーホールド (0) このオプションを選択すると、プロジェクタを再起動しても最後に設定したミラー補正値が維持されます。
	消画時間 (0) 消画が有効になってからプロジェクタの電源が自動的にオフになるまでの時間を設定します。
	自動電源オフ (0) 自動的にプロジェクタをシャットダウンするまでの待ち時間を指定します。
	ユーザーロゴ（デフォルト） プロジェクタ起動時に表示されるロゴ画面を、ユーザーが選択することができます。選択肢には以下の 3 つがあります。デフォルト（BenQ ロゴ）、黒画面、と青画面です。
プリセットモード （選択した入力ソースによって変わります）	プリセットモードを利用すると、ご使用のプログラムタイプに最適なプロジェクタのイメージを設定することができます。 36 ページの " プリセットモードの選択 " を参照してください。
リセット	すべての設定を工場出荷時の値に戻します。 ☞ **次の設定は現在の設定値のまま維持されます。位相、システム、言語、キーストーンホールド、ミラーホールド、ユーザーロゴ、高地、PIP の水平位置、PIP の垂直位置、PIP の輝度、PIP のコントラスト、PIP の色、PIP の色合い、PIP のシャープネス。**

高地 （オフ）	高地や温度が高い場所で使用するときのモードです。38 ページの " 高地での操作 " を参照してください。

PIP メニュー

PIP 画面を表示して、さまざまな調整を行うことができます。

機能	説明
PIP ソース （自動）	PIP 画像のソースを選択します。プロジェクタが適切な信号を自動的に検出するので、**Auto（自動）**に設定されるようお薦めします。
PIP サイズ （オフ）	**◀ 左 / ▶ 右** を使って次の 4 種類の選択肢から選択してください。 オフ、小、中、大 **オフ** を選択すると、PIP 画像が閉じられます。 **PC 信号の解像度が 1280 x 1024 (SXGA) の場合は、選択した大きい PIP サイズは中サイズに縮小されます。**
PIP 位置 （上ー左）	PIP の位置を選択します。
水平位置 (0)	PIP 画像の水平位置を調整します。
垂直位置 (100)	PIP 画像の垂直位置を調整します。
追加オプション	**◀ 左 / ▶ 右**を使って、輝度、コントラスト、色、色合い、シャープネス、システムなどの他の PIP 機能を選択することができます。
輝度 (0)	PIP 画像の輝度を調整します。
コントラスト (0)	PIP 画像の明るさと暗さの差を調整します。値を高くするほどコントラストが増加します。
色 (0)	PIP 画像の色強度を増減します。
色合い (0)	PIP 画像の色調を調整します。値を高くするほど赤みがかったイメージになります。値を低くするほど緑がかったイメージになります。
シャープネス (0)	画像がシャープまたはソフトになるように調整します。
システム	ビデオ入力システムの形式として NTSC、PAL、SECAM、YUV のいずれかを表示します。

6 メンテナンス

プロジェクタのお手入れ

ご使用のプロジェクタはほとんどメンテナンスの必要がありません。定期的に行う必要があるのは、過熱を防止するためにレンズとダストフィルタを手入れすることだけです。

詳細は、" レンズのクリーニング " と " ダストフィルタのお手入れと取り替え " を参照してください。

ランプとダストフィルタを除き、プロジェクタの部品は一切取り外さないでください。ランプ以外の交換が必要な場合は、販売店にご相談ください。

レンズのクリーニング

表面の汚れやほこりが付いていたら、レンズをクリーニングします。

- 圧縮空気スプレーを使用してほこりを取り除きます。
- 汚れやしみが付いた場合は、レンズ クリーニング ペーパーまたはレンズ クリーナで湿らせた柔らかい布でレンズの表面を軽く拭きます。

☞ **レンズは絶対に研磨剤でこすらないでください。**

プロジェクタ ケースのクリーニング

ケースのお手入れを行う前に、41 ページの " プロジェクタの終了 " に記載されている正しい手順でプロジェクタの電源を切り、電源コードを抜いてください。

- ケースの汚れやゴミを落とすには、クリーニング布でやさしく拭いてください。
- 落ちにくい汚れやしみを取り除くには、水で薄めた中性洗剤で布を湿らせて、ケースを拭きます。

☞ **ワックス、アルコール、ベンジン、シンナー、その他の化学洗剤は使用しないでください。こうした薬剤を使用すると、ケースを傷める場合があります。**

プロジェクタの保管

長期間プロジェクタを保管する必要がある場合、次の手順に従ってください。

- 保管場所の温度と湿度が、プロジェクタの推奨範囲内であることを確認します。詳細は、59 ページの " 仕様 " を参照されるか、販売店にお尋ねください。
- アジャスタフットを格納します。
- リモコンから電池を取り外します。
- プロジェクタを元の梱包または同等の梱包にしまいます。

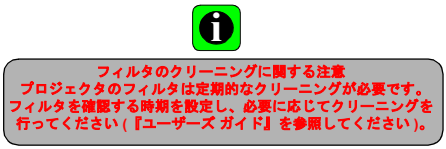
プロジェクタの移動

プロジェクタを搬送するときは、元の梱包または同等の梱包で行うことを推奨します。ご自分で運ぶ場合は、最初に本製品が梱包されていた材料か、添付の携帯用ソフトケースを使用してください。

ダストフィルタのお手入れと取り替え

ダストフィルタは定期的なお手入れが必要です。フィルタが汚れていると汚れがこびり付き、適切な通気ができなくなります。これはプロジェクタの過熱や故障の原因となります。

300 時間ごとに、フィルタのお手入れを知らせる右図のような警告メッセージが約 10 秒間表示されます。



☞ **重要：フィルタの掃除や交換を行う場合は、フィルタを取り外す前にプロジェクタが正しくシャットダウンされていることを確認してください。**

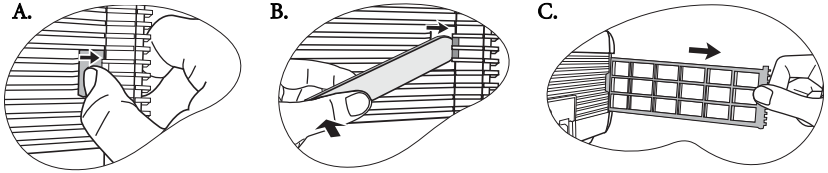
このプロジェクタには 2 つの隠しフィルタがあります。1 つはフロント通気グリル (11 ページのアイテム 7 を参照) の裏に、もう 1 つは左側 (11 ページのアイテム 16 を参照) にあります。

フロントフィルタ

1A. フロントダストフィルタはプロジェクタの右側手前にあります。下の図 A に示す通り、横から指を差し込んで手前に引いてください。

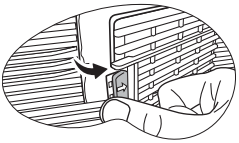
1B. フロントフィルタを取り外しにくい場合は、下図 B に示す通り平たいもの（アイスクリームの棒など）をてこ代わりにしてゆっくりとフィルタを外してください。

1C. 下図 C に示す通り、フィルタカートリッジを正面に対して平行に維持しながら、プロジェクタの横からゆっくりと引き出してください。

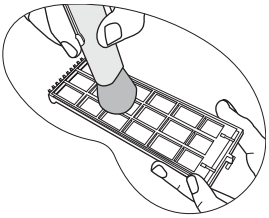


背面フィルタ

2. 背面ダストフィルタはプロジェクタの左側後方にあります。下図に示す通り、横から指を差し込んで手前に引いてください。



3. フィルタを掃除する場合は、コンピュータやその他のオフィス機器用小型掃除機をご使用になるか、柔らかいブラシ（清潔なアーティスト用ペイントブラシなど）を使ってやさしくホコリを落としてください。フィルタスポンジとプラスチックのフィルタフレームの間にギャップが生じないように、フィルタスポンジをフロントフィルタのフィルタフレームにしっかりとはめてください。



汚れがこびり付いて簡単には除去できない場合や、フィルタが破損してしまった場合は、フィルタを交換してください。その他の補修情報については

販売店にご相談になるか、または BenQ ホームページ（www.BenQ.com）をご覧ください。

4. フィルタを元の場所に戻して、カバーをカチッと音がするまで押し込んでください。
   カバーが正しく装着されていなければ、３分毎に画面に警告メッセージが表示されます。そのまま何もしなければ、プロジェクタは 10 分後に自動的に電源が切れます。フィルタを正しく装着し、その後で電源を入れてください。



フィルタの取り付けに関する注意
プロジェプロジェクタのフィルタが正しく取り付けられていません。
フィルププロジェクタの電源を切り、フィルタとカバーを確認してください。必要に応じて取り付け直してください（『ユーザーズ ガイド』を参照してください）。

ランプについて

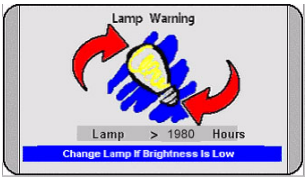
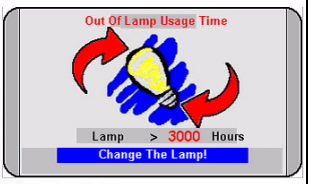
ランプの使用と交換

Lamp（ランプ）インジケータが赤に点灯した場合、またはランプの交換時期であることを示すメッセージが表示された場合は、新しいランプを取り付けるか、お買い上げの販売店にご相談ください。古いランプを使用すると、プロジェクタの誤動作の原因となり、ランプが破裂することもあります。

プロジェクタの警告メッセージについての詳細は、55 ページの " インジケータ " を参照してください。

⚠ **ランプの温度が異常に高くなると、Lamp（ランプ）インジケータライトおよび温度警告ライトが点灯します。ダストフィルタが汚れていないかを確認する前に、電源をオフにしてプロジェクタを冷却してください (50 ページのページ参照)。このようにしても電源をオンにしたときに Lamp（ランプ）インジケータまたは Temp（温度）インジケータが点灯する場合は、販売店にご相談ください。**

次のランプ警告が表示されたら、ランプを交換してください。

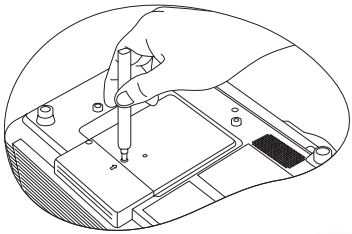
メッセージ	状態
	ランプの動作時間が 1980 時間を超えました。動作を最適化するために、新しいランプを取り付けてください。通常プロジェクタを省電力モードで起動している場合は（36 ページの " プリセットモードの選択 " を参照してください）、2980 時間のランプ警告メッセージが表示されるまでプロジェクタを使用することができます。
	ランプの使用時間が 2980 時間に達すると、あと 20 時間で電源がシャットダウンします。新しいランプに交換しておくと、途中でランプが寿命で切れる不都合を避けられます。
	ランプの動作時間が 3000 時間を超えました。このメッセージが画面中央で点滅すると共に、ランプインジケータが 30 秒間赤く点灯します。 この時点でランプを交換されるよう強くお薦めします。ランプは消費アイテムです。使用時間が長くなると、ランプは徐々に明るさを失います。これは正常な現象です。ランプが非常に暗くなったら、いつでもランプを交換してください。ランプの使用時間が 3000 時間を超えたらランプを交換してください。

ランプの安全な使用に関する注意 間もなくプロジェクタの電源が自動的に切れます。推奨されているランプの最大使用時間を超過しています！プロジェクタのランプを交換してください（『ユーザーズ ガイド』を参照してください）。	この警告メッセージが表示されると、プロジェクタは 40 秒以内にシャットダウンします。プロジェクタを通常作動させるには、ランプを交換する必要があります。

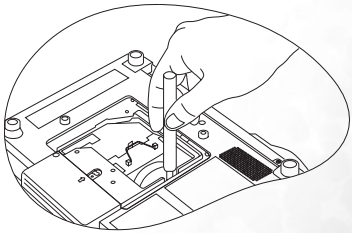
ランプの交換

⚠
- **感電を防ぐため、ランプを交換する前には必ずプロジェクタの電源をオフにし、電源コードを抜いてください。**
- **重度のやけどを負う危険を防ぐため、ランプを交換する前に、最低でも 45 分間はプロジェクタを冷却してください。**
- **割れて鋭くなったランプのガラス片を取り除く場合は、指をけがしたり、内部部品を破損したりしないように、十分注意してください。**
- **指のけがや、レンズに触れることによる画質の劣化を避けるため、ランプを取り外すときに空のランプ ケースには触れないでください。**
- **このランプの中には水銀が入っています。ランプの処分は、地元の有害廃棄物規制条例にしたがって、正しい方法で行ってください。**

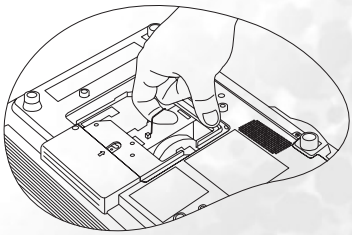
1. 電源をオフにして、プロジェクタをコンセントから抜きます。
2. 机の上のものを他の場所に移し、机の上に柔らかいものを置いてプロジェクタを保護してください。
3. プロジェクタを上下に裏返します。ネジを緩めて、ランプ カバーを取り外します。ランプが高温になっている場合は、やけどを防ぐためにランプを 45 分間放置して常温に戻してください。



4. ランプをプロジェクタに固定しているネジを緩めます。ネジを完全に緩めなければ、ランプを外すことはできません。新しいランプを固定するときに必要ですので、ネジは紛失しないように保管しておいてください。ヘッドに磁石が付いたドライバをお使いになることを強くお薦めします。



5. ハンドルを上に持ち上げてください。ハンドルを使って、ゆっくりとランプをプロジェクタから引き抜きます。



☞
- **急激に引っ張るとランプが割れ、ガラスの破片がプロジェクタ内に散乱します。**
- **取り出したランプは、水のかかる場所、子供の手が届く場所、可燃物の付近には置かないでください。**

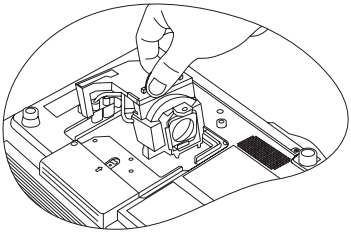
- **ランプを取り外した後は、プロジェクタ内に手を入れないでください。内部の光学部品に手を触れると、投写イメージの色が不均一になり歪む場合があります。**

6. 新しいランプを挿入します。ハドルが完全にフラットな状態になっており、ロックされていることを確認してください。ネジをしっかりと締めてください。

☞ • **ネジの締め方がゆるいと接触が悪くなり、故障の原因になる場合があります。**

- **ネジを締め過ぎないでください。**

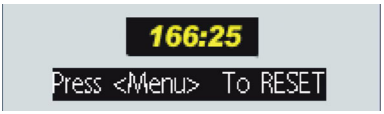
7. ランプカバーを元に戻し、ネジで固定します。
8. 信号ソースが表示されるように接続を行ってください。プロジェクタを起動します (電源を入れる方法については、23 ページの " 接続 " と 31 ページの " 起動 " を参照してください)。



☞ • **ランプカバーを外したまま、電源を入れないでください。ランプを置き換えた後は、ランプの作動合計時間をリセットしてください。**

- **ランプを交換していない場合はリセットしないでください (ランプが破損する恐れがあります)。**

9. ランプカウンタのリセット
   i. プロジェクタの▲Exit (**終了**) ボタンを 3 秒間押し、ランプの合計動作時間を表示します。



   ii. ランプ時間タイマーを表示するには、プロジェクタで▼Menu（**メニュー**）を押すか、リモコンの MENU（**メニュー**）を押してください。すると調整メッセージが表示されます。



   iii. プロジェクタかリモコンの◀**左** /▶**右** を押してランプ時間をリセットし、次に▲Exit（**終了**）を押してください。

温度情報

温度警告ライトが点灯している場合は、以下の問題が発生していることを示しています。

1. 内部温度が異常に高くなっています。
2. ダストフィルタが汚れています。
3. ファンが動作していません。

プロジェクタの電源を切り、ダストフィルタが清潔であるかどうかを確認してください。それでも問題が残る場合は、認定サービス担当者にお問い合わせください。

詳細は、55 ページの " インジケータ " を参照してください。

インジケータ

意味

- Blank (ブランク)- : ライト消灯
-  : ライト点滅
-  : ライト点灯
- O : オレンジ色
- R : 赤色
- G : 緑色

LED			状態と説明
電源	温度	ランプ	
電源の状況			
			プロジェクタがたった今コンセントに接続されました。
	-	-	スタンバイ モードです。
	-	-	(1) 通常の冷却プロセスを経過せずに異常終了したため、プロジェクタの冷却に 90 秒必要です。**または** (2) 電源をオフにした後、プロジェクタの冷却に 90 秒必要です。
	-	-	起動中、Power（**電源**）**インジケータ ライト**が点滅します。
	-	-	プロジェクタは通常動作中です。
ランプの状況			
-	-	-	ランプカウンターで問題が発生しました。
-	-		ランプの使用時間が 3000 時間を越えたことを警告しています。直ちに新しいランプに交換してください。
-	-		ランプが正しく装着されていないか、壊れています。販売店にお問い合わせください。

LED			状態と説明
電源	温度	ランプ	
温度の状況			
-	R	-	プロジェクタが自動的に終了しました。プロジェクタを再起動しようとしても、プロジェクタは再度終了します。販売店にお問い合わせください。
-	R	G	
-	R	G	
G	R	-	
G	R	G	
G	R	G	
O	R	-	
O	R	G	
O	R	G	
R	G	R	

7 トラブルシューティング

⑦ プロジェクタの電源がオンにならない

原因	対応
電源コードから電源が来ていません。	電源コードをプロジェクタの電源コードソケットとコンセントに差し込みます。コンセントにスイッチがある場合は、スイッチがオンになっていることを確認します。
冷却プロセスの間にプロジェクタの電源をオンにしようとしています。	冷却プロセスが完了するまでお待ちください。

⑦ 画像が映らない

原因	対応
ビデオ ソースがオンになっていないか、正しく接続されていません。	ビデオ ソースをオンにし、信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。
プロジェクタが正しく入力ソース機器に接続されていません。	接続を確認します。
入力信号が正しく選択されていません。	プロジェクタまたはリモコンの **SOURCE（ソース）** キーで正しい入力信号を選択します。
レンズカバーが開いていません。	レンズカバーを外してください。

⑦ イメージがぼやける

原因	対応
投写レンズの焦点が合っていません。	ピントリングで焦点を合わせます。
プロジェクタとスクリーンの位置が正しく合っていません。	投写角度および方向、また必要であればプロジェクタの高さを調整します。
レンズカバーが開いていません。	レンズカバーを外してください。
レンズが汚れています。	49 ページの " レンズのクリーニング " の説明にしたがってレンズを掃除してください。

⑦ リモコンが機能しない

原因	対応
電池が切れています。	電池を新しい電池に交換します。
リモコンとプロジェクタの間に障害物があります。	障害物を取り除きます。
プロジェクタからの距離が遠すぎます。	プロジェクタから 6 メートル（19.5 フィート）以内の場所に立ちます。

? 投写イメージが大きすぎて画面に表示しきれなかったり、一部が切れてしまう

原因	対応
コンピュータとプロジェクタの解像度が一致していません。	1. Image（画像）メニューで Auto Resize（自動サイズ調整）がオンになっていることを確認してください。 2. Image（画像）メニューで H Position（水平位置）と V Position （垂直位置）が正しく設定されていることを確認してください。 3. コンピュータの外付けモニタの解像度をプロジェクタのネイティブ解像度 (PB8253/PB8263 の場合は 1024 x 768) に合わせて設定してください。このオプションを選択できない場合は、60 ページの "PC (DVI-I を含む) 入力のサポートタイミング " にリストされるものの中から対応するものを選択してください。 4. プレゼンテーションファイルが別の解像度で作成されていないかどうかを確認してください。
コンピュータの外付けモニタが 640 x 480 にロックされています。	

? My Window Media Player プログラムはコンピュータ上で正常に作動しますが、Media Player ツールが [OK] と表示されているにも関わらずプロジェクタではムービーウィンドウが暗くなります。

原因	対応
コンピュータの外付けモニタが第 2 ディスプレイとして設定されています。	画面の設定を変更してください。スタート > コントロールパネル > 画面 > 設定 > 詳細 > 画面を選択します。この手順で [画面] 設定が見つからない場合は、コンピュータの取り扱い説明書をお読みください。モニタをプライマリに、パネルをセカンダリに設定します。これでパネルムービーウィンドウが暗くなり、プロジェクタにムービーウィンドウが表示されるはずです。

? リモートマウスが正常に作動しません。

原因	対応
USB ケーブルがコンピュータかプロジェクタに正しく接続されていません。	接続を確認します。23 ページの " コンピュータの接続 " を参照してください。 それでも問題が残る場合は、マウスドライバを確認してください。詳細については、マウスの取り扱い説明書をお読みください。

8 仕様

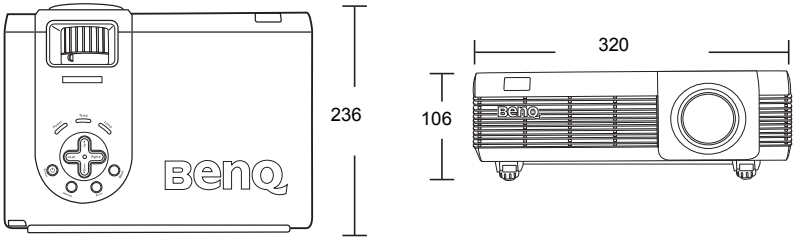
プロジェクタの仕様

☞ **仕様はすべて予告なしに変更されることがあります。**

光学	
解像度	1024 x 768 XGA
表示システム	1-CHIP DMD
レンズ F/ 番号	F=2.4 ～ 2.6, f=24.0-29.1 mm
ランプ	300W
電気仕様	
電源	AC100 ～ 240V、4.5A、50/60 Hz（自動）
消費電力	395W (最大)
機械仕様	
重量	3.6 Kg
入力端子	
コンピュータ入力	
RGB 入力	D-Sub 15-pin（メス）x 1
DVI-I 入力	(DVI-A 信号使用)
ビデオ信号入力	
S ビデオ	Mini DIN 4-pin ポート x 1
ビデオ	RCA ジャック x 1
SD/HDTV 信号入力	アナログー D-Sub -- コンポーネント RCA ジャック x 3 (RGB 入力使用)
	デジタルー DVI (HDTV のみ)
オーディオ信号入力	
PC オーディオ	ステレオミニジャック x 1
オーディオ L/R	RCA ジャック x 2
出力	
RGB 出力	D-Sub 15-pin（メス）x 1
スピーカ	(ステレオ) 1 ワット x 2
コントロール	
USB マウスコントロール	A/B シリーズ x 1
RS-232 シリアルコントロール	Mini DIN 9 pin x 1
使用環境条件	
動作温度範囲	0°C ～ 40°C（海抜）
操作時の相対湿度	10% ～ 90%（結露なきこと）
動作高度	• 0 ～ 3000 フィート（0°C ～ 40°C） • 3000 ～ 6000 フィート（0°C ～ 30°C） • 6000 ～ 10000 フィート（0°C ～ 23°C）

外形寸法

320 mm (幅) × 106 mm (高さ) × 236 mm (奥行き)



単位：mm

タイミングチャート

PC (DVI-I を含む) 入力のサポートタイミング

解像度	水平周波数（kHz）	垂直周波数（Hz）	ピクセル周波数（MHz）	モード
720 x 400	37.927	85.039	35.500	720 x 400_85
640 x 480	*31.469	*59.940	*25.175	*VGA_60
	37.861	72.809	31.500	VGA_72
	37.500	75.000	31.500	VGA_75
	43.269	85.008	36.000	VGA_85
800 x 600	37.879	60.317	40.000	SVGA_60
	48.077	72.188	50.000	SVGA_72
	46.875	75.000	49.500	SVGA_75
	53.674	85.061	56.250	SVGA_85
1024 x 768	48.363	60.004	65.000	XGA_60
	56.476	70.069	75.000	XGA_70
	60.023	75.029	78.750	XGA_75
	68.667	84.997	94.500	XGA_85
1280 x 1024	63.981	60.020	108.000	SXGA_60
**720 x 480	31.47	59.94	27.00	480p
**1280 x 720	45.00	59.94	74.25	720p
**1920 x 1080	28.13	59.94	74.25	1080i (1125L)
**720 x 576	31.25	50	27.00	576p
**1280 x 720	37.50	50	74.25	720p
**1920 x 1080	28.13	50	74.25	1080i (1125L)

*** アナログ RGB または DVI-A 入力信号が選択されているときには、タイミングを使用することはお薦めしません。**
****DVI-D 入力信号が選択されているときには、タイミングを使用することはお薦めしません。**

コンポーネント YP_bP_r 入力用にサポートされているタイミング

信号フォーマット	水平周波数（kHz）	垂直周波数（Hz）
480i(525i)@60Hz	15.73	59.94
480p(525p)@60Hz	31.47	59.94
576i(625i)@50Hz	15.63	50.00
576p(625p)@50Hz	31.25	50.00
720p(750p)@60Hz	45.00	60.00
720p(750p)@50Hz	37.50	50.00
1080i(1125i)@60Hz	33.75	60.00
1080i(1125i)@50Hz	28.13	50.00

ビデオおよび S ビデオ入力用にサポートされているタイミング

ビデオモード	水平周波数（kHz）	垂直周波数（Hz）	カラー副搬送波周波数（MHz）
NTSC	15.73	60	3.58
PAL	15.63	50	4.43
SECAM	15.63	50	4.25 または 4.41
PAL-M	15.73	60	3.58
PAL-N	15.63	50	3.58
PAL-60	15.73	60	4.43
NTSC4.43	15.73	60	4.43

保証

限定保証

BenQ は、本製品が正常に使用および保管される場合に限り、本製品の材料および製造上の瑕疵がないことを保証します。

保証を受ける際には、購入日の証明が必要となります。保証期間中に本製品に瑕疵があることが判明した場合、BenQ の全責任と、お客様に対する全面的な補償は、瑕疵のある部品の交換（工賃を含む）に限られます。保証サービスを受ける場合は、製品を購入した販売店に直ちに連絡してください。

重要：お客様が BenQ の文書による指示に従わずに操作を行った場合はこの保証は無効となります。特に本製品は環境湿度 10% から 90% の間、温度 0ºC から 40ºC の間、高度 10000 フィート以下の環境でご使用になり、ホコリが立ちやすい場所での使用はお止めください。この保証により、お客様には特定の法的権利が与えられます。また、在住している国によっては、お客様にその他の権利が与えられることもあります。

詳細は、弊社ホームページ support.BenQ.com をご覧ください。

10 法規

FCC 規則

B クラス：本デバイスはラジオ周波エネルギーを発生、使用し、さらに放射する可能性があり、指示にしたがってインストールおよび使用しなければ、ラジオ通信に有害な障害を与える場合があります。しかしながら、特定の方法で設置すれば障害を発生しないという保証は何もありません。このデバイスがラジオや TV 受信装置に有害な障害を与える場合は（デバイスの電源を一度切って入れなおすことにより確認できます）、障害を取り除くために次の方法にしたがってください。

- 受信アンテナの方向を変えるか、設置場所を変える
- このデバイスと受信装置の距離をあける
- このデバイスの受信装置とは別のコンセントに接続する
- ディーラーか経験のあるラジオ /TV 技術者に問い合わせる

EEC 規則

本装置は、EMC（Electronic Magnetic Compatibility：電磁的両立性）に関する ECC 指令 89/336/EEC に適合することが試験の結果確認されています。

MIC 規則

B クラス装置（家庭用情報 / 電気通信装置）

本装置は家庭用として EMC 登録を受けているため、本製品は住居地域を含む任意の地域で使用できます。

WEEE 指令

ヨーロッパ共同体における家庭からの電子および電気製品の廃棄について。

本製品または梱包材料に記載されているこの記号は、これを家庭廃棄物として破棄することができないことを意味しています。電子または電気装置の再利用規定に基づいて処理してください。本装置の再利用についての詳しい情報は、お住まい地域の市役所、本製品を購入された店、または家庭廃棄物処理機関にお問い合わせください。素材の再利用は自然環境の保護に役立つと共に、人類の健康や環境を確実に保護する方法で再利用されます。

